

平 成 29 年
市民アンケート調査
報 告 書

平成 29 年 4 月
八 戸 市

< 目 次 >

I 実施概要	… P1
1. 調査目的	… P1
2. 調査対象	… P1
3. 調査項目	… P1
4. 調査方法	… P1
5. 調査時期	… P1
6. 回収状況	… P1
II 回答者の属性	… P2
III 単純集計	… P3
1. 八戸市が取り組んでいるまちづくりに対する現状評価	… P3 ～14
2. 全ての設問項目の満足度と認知度の位置関係	… P15～17
3. 八戸市に対する愛着や誇り	… P18
IV クロス集計	… P19
1. クロス集計の考え方	… P19～20
2. 属性別のまちづくりに対する現状評価	… P21～30
3. 属性別の八戸市に対する愛着や誇り	… P31～34
4. 年齢別・居住年数別の施策の認知度	… P35～38
V 自由回答	… P39
1. 分類・整理の方法	… P39～41
VI 参考資料	… P42
1. アンケート調査票	… P42

I 実施概要

1. 調査目的

- この調査は、第6次八戸市総合計画や八戸市復興計画、八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略で重点的に推進する施策について、市民の皆様の考えや意見を伺い、施策の進行管理の基礎資料として活用することを目的に実施した。

2. 調査対象

- 以下の①～③、計 1,132 人を対象とした。
 - ①八戸市在住の満 18 歳以上の市民 : 1,000 人
 - ②市政モニター : 100 人
 - ③総合計画の策定に携わった有識者 : 32 人
- ①八戸市在住の満 18 歳以上の市民については、住民基本台帳を基に地域別人口の割合を考慮して、無作為抽出(男女別、年齢階層別)した。

3. 調査項目

- 八戸市が取り組んでいるまちづくりに対する現状評価
- 八戸市に対する愛着や誇り
- 回答者の属性

4. 調査方法

- 郵送配布及び郵送回収により実施した。
- 回収率を高めるため、調査票等の発送から概ね2週間後に、お礼と協力の依頼を兼ねたはがきを送付した。

5. 調査時期

- 調査票等の発送 : 平成 29 年 1 月 20 日(金)
- お礼状等の発送 : 平成 29 年 2 月 2 日(木)
- 調査票の回収 : 平成 29 年 1 月 21 日(土)～平成 29 年 2 月 12 日(日)

6. 回収状況

- 配布数 1,132 票に対して、回収数 680 票、回収率は 60.1%となった。

表 1 回収状況

配布数	回収数	回収率
1,132 票	680 票	60.1%

(参考)過去に実施した市民アンケートの回収状況

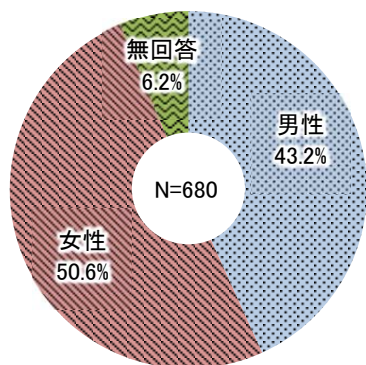
※平成 28 年市民アンケート調査:回収率 65.1%(配布数 1,132 票、回収数 737 票)

※平成 26 年市民アンケート調査:回収率 54.1%(配布数 6,000 票、回収数 3,247 票)

II 回答者の属性

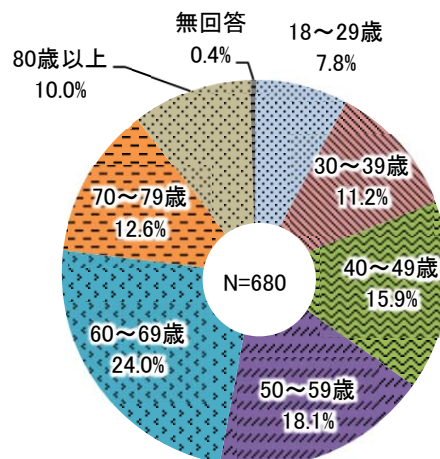
【性別】

- 男性が約 43%、女性が約 51%となっている。



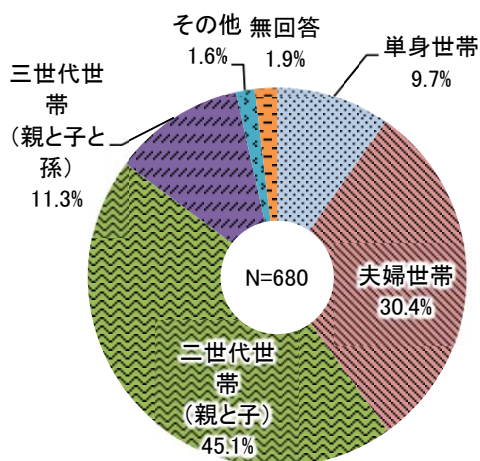
【年齡】

- 60～69 歳が 24%と最も高く、次いで、50～59 歳が約 18%、40～49 歳が約 16%となっている。



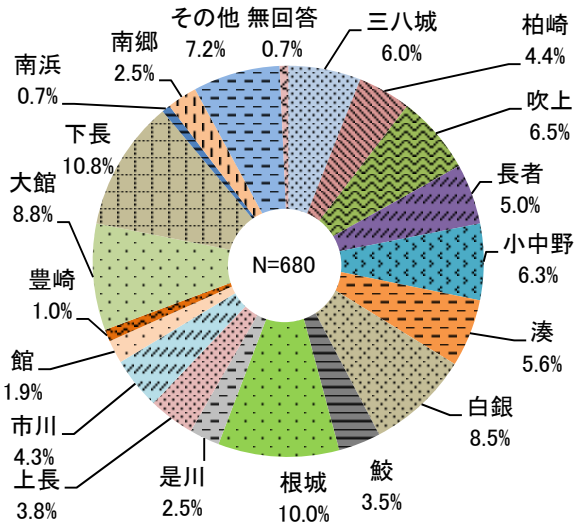
【家族構成】

- 二世帯世帯が約 45%と最も高く、夫婦世帯が約 30%、三世帯世帯が約 11%、単身世帯が約 10%となっている。



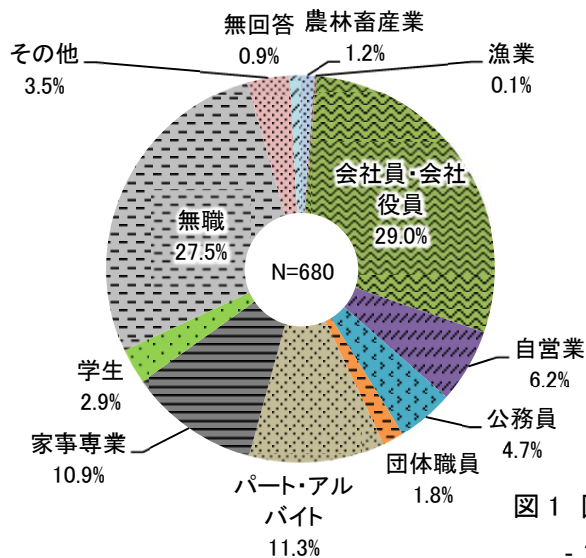
【お住まいの地区】

- 下長地区が約 11%と最も高く、根城地区が 10%、大館地区と白銀地区が約 9%となっている。



【職業】

- 会社員・会社役員が 29%、無職が約 28%となっている。



【居住年数】

- 30年以上が約70%、20～29年が約14%となっており、居住年数20年以上が8割を占めている。

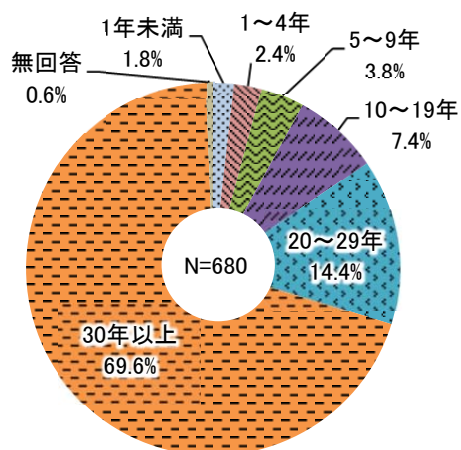


図 1 回答者の属性

Ⅲ 単純集計

1. 八戸市が取り組んでいるまちづくりに対する現状評価

(1) 満足度の高い設問項目

- 「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足度は、「質の高い医療環境の整備」が約 69%で最も高く、次いで「業務改善によるサービス向上」が約 68%、「防災体制の強化」が約 59%と続いている。

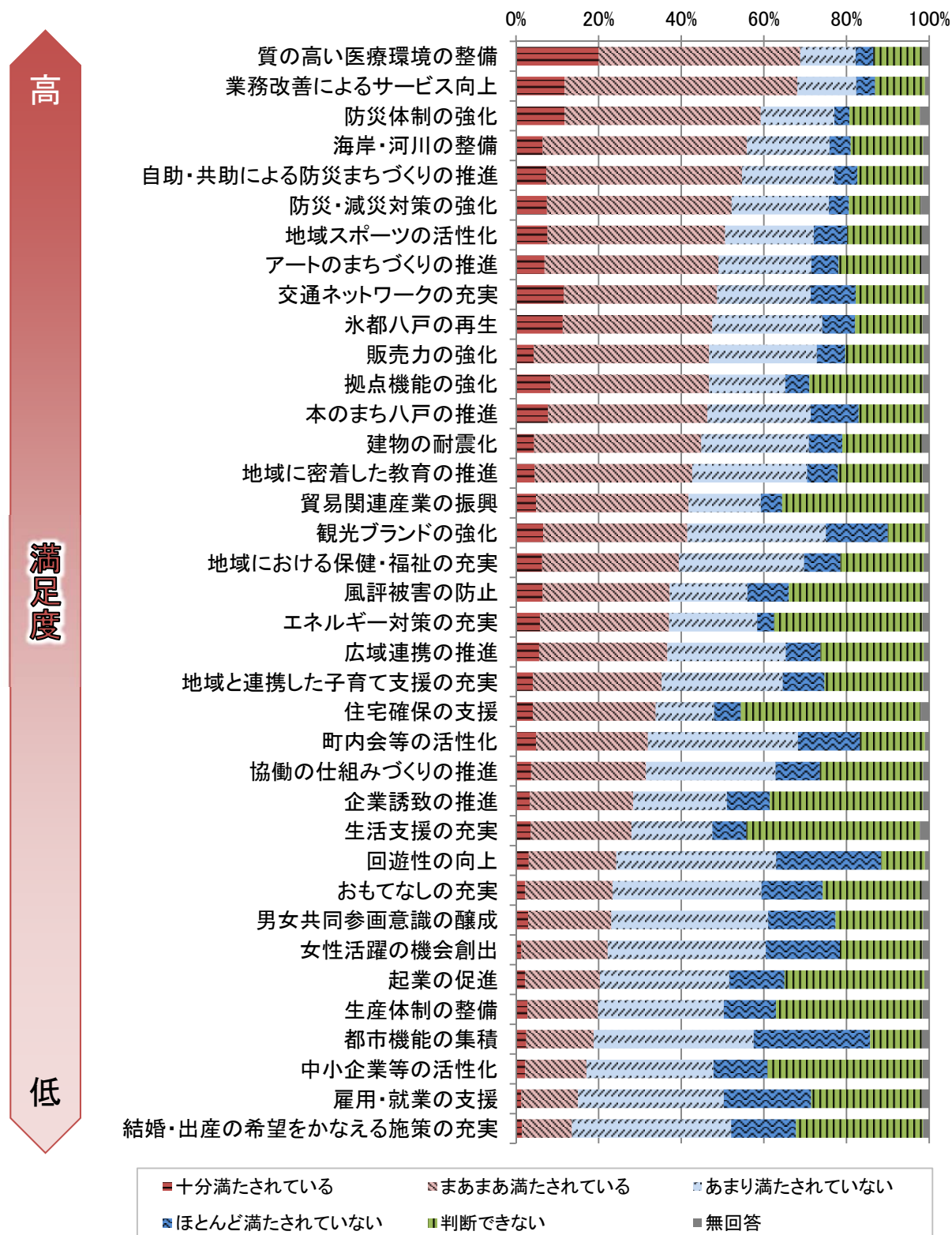


図2 まちづくりに対する現状評価

N=680

表 2 前年より満足度が上昇した3項目

項 目	平成 29 年			平成 28 年			満足度 の増減
	十分満た されてい る	まあまあ 満たされ ている	満足度	十分満た されてい る	まあまあ 満たされ ている	満足度	
業務改善によるサービス向上	11.8%	56.3%	68.1%	6.9%	45.3%	52.2%	15.9 pt
本のまち八戸の推進	7.8%	38.5%	46.3%	4.2%	26.3%	30.5%	15.8 pt
地域スポーツの活性化	7.6%	42.9%	50.5%	5.6%	36.5%	42.1%	8.4 pt

表 3 前年より満足度が低下した3項目

項 目	平成 29 年			平成 28 年			満足度 の増減
	十分満た されてい る	まあまあ 満たされ ている	満足度	十分満た されてい る	まあまあ 満たされ ている	満足度	
生産体制の整備	2.8%	17.1%	19.9%	3.8%	21.2%	25.0%	▲5.1 pt
住宅確保の支援	4.1%	29.7%	33.8%	5.0%	32.8%	37.8%	▲4.0 pt
町内会等の活性化	4.9%	27.1%	32.0%	3.8%	31.8%	35.6%	▲3.6 pt

表 4 前年より不満足度が上昇した3項目

項 目	平成 29 年			平成 28 年			不満足度 の増減
	あまり 満たされ ていない	ほとんど 満たされ ていない	不満足 度	あまり 満たされ ていない	ほとんど 満たされ ていない	不満足 度	
生産体制の整備	30.4%	12.6%	43.0%	28.0%	11.4%	39.4%	3.6 pt
貿易関連産業の振興	17.5%	5.1%	22.6%	14.2%	4.7%	18.9%	3.7 pt
交通ネットワークの充実	22.6%	10.9%	33.5%	22.3%	10.7%	33.0%	0.5 pt

表 5 前年より不満足度が低下した3項目

項 目	平成 29 年			平成 28 年			不満足度 の増減
	あまり 満たされ ていない	ほとんど 満たされ ていない	不満足 度	あまり 満たされ ていない	ほとんど 満たされ ていない	不満足 度	
本のまち八戸の推進	25.0%	11.6%	36.6%	38.9%	14.5%	53.4%	▲16.8 pt
地域スポーツの活性化	21.5%	8.1%	29.6%	32.3%	9.6%	41.9%	▲12.3 pt
業務改善によるサービス向上	14.3%	4.6%	18.9%	22.1%	7.1%	29.2%	▲10.3 pt

※満 足 度 : 「十分満たされている」「まあまあ満たされている」を合わせた割合

不満足度 : 「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」を合わせた割合

(2) 分野別の分析結果

①子育て・教育・男女共同参画に関する分野の現状評価

<今回の調査結果>

- 現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足度が高い回答をみると、「本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる」が約 46%と高く、次いで、「地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている」が約 43%となっている。
- 一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満足度が高い回答をみると、「結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性が活躍できる機会が増えている」が約 56%と高く、次いで、「男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている」と「性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らしを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている」が約 54%となっている。
- また、本分野については、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答はみられない。

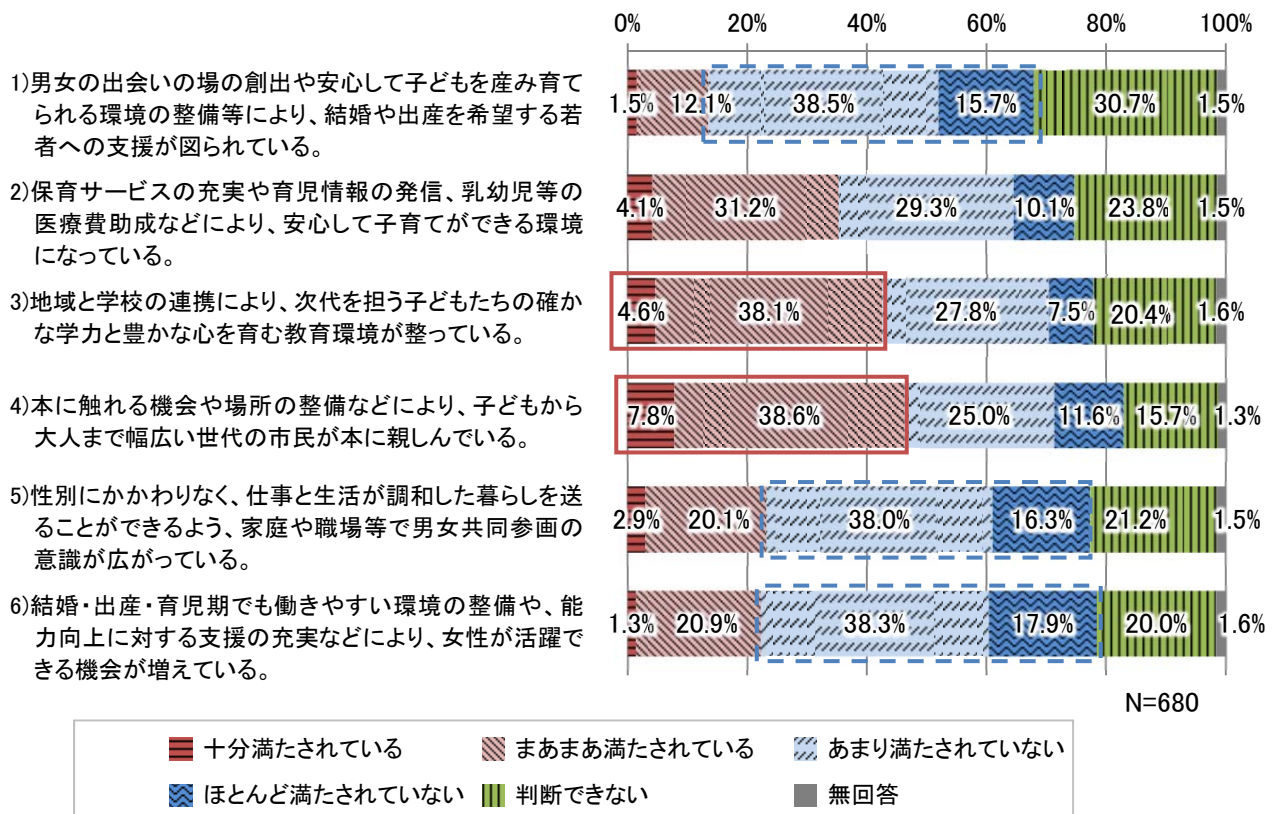
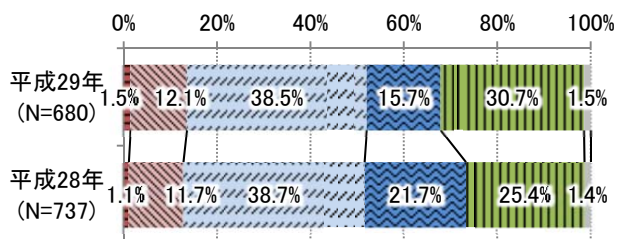


図 3 子育て・教育・男女共同参画に関する分野の現状評価

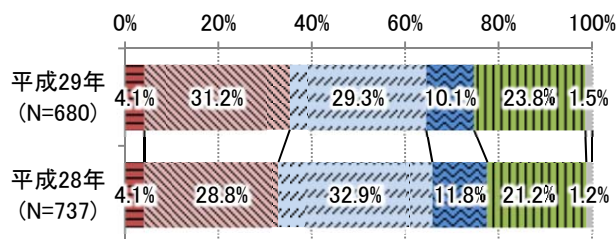
<前回の調査結果との比較>

十分満たされている
 まあまあ満たされている
 あまり満たされていない
 ほとんど満たされていない
 判断できない
 無回答

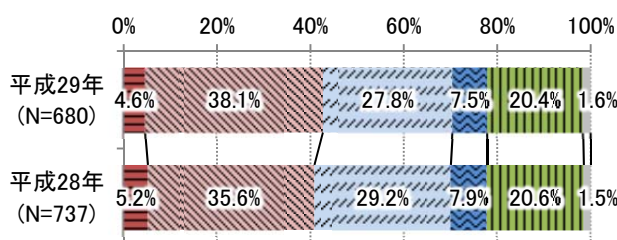
1) 男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。



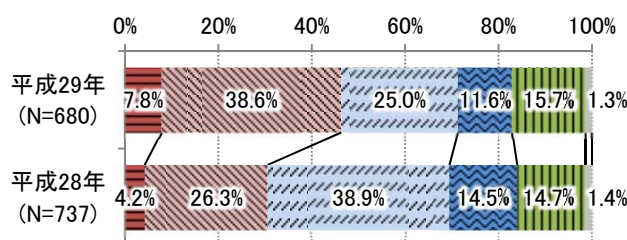
2) 保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。



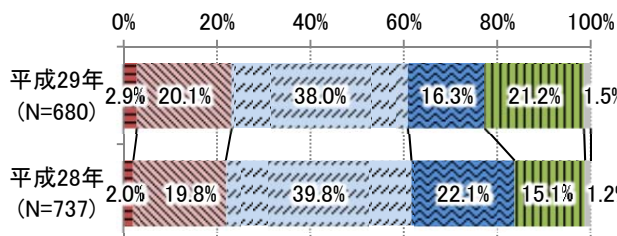
3) 地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている。



4) 本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる。



5) 性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている。



6) 結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性が活躍できる機会が増えている。

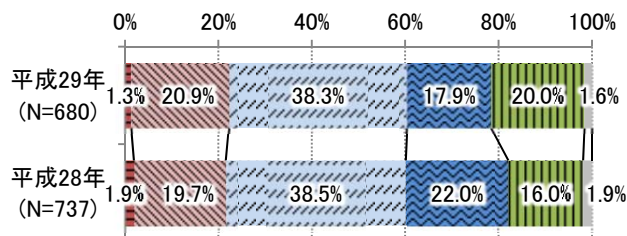


図4 子育て・教育・男女共同参画に関する分野における前回の調査結果との比較

②産業・雇用に関する分野の現状評価

＜今回の調査結果＞

- 現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足度が高い回答をみると、「販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場製品の価値が高まっている」が約 47%と高く、次いで、「積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている」が約 42%、「放射性物質に対する監視体制が整備され、地場製品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている」が約 37%となっている。
- 一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満足度が高い回答をみると、「求人・就職のマッチングや UIJ ターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている」が約 56%と高く、次いで、「起業に関する情報提供や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている」が約 45%、「経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている」が約 44%、「農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている」が約 43%となっている。
- また、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答をみると、「IT・テレマーケティングやエネルギー分野などで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる」が約 37%となっている。

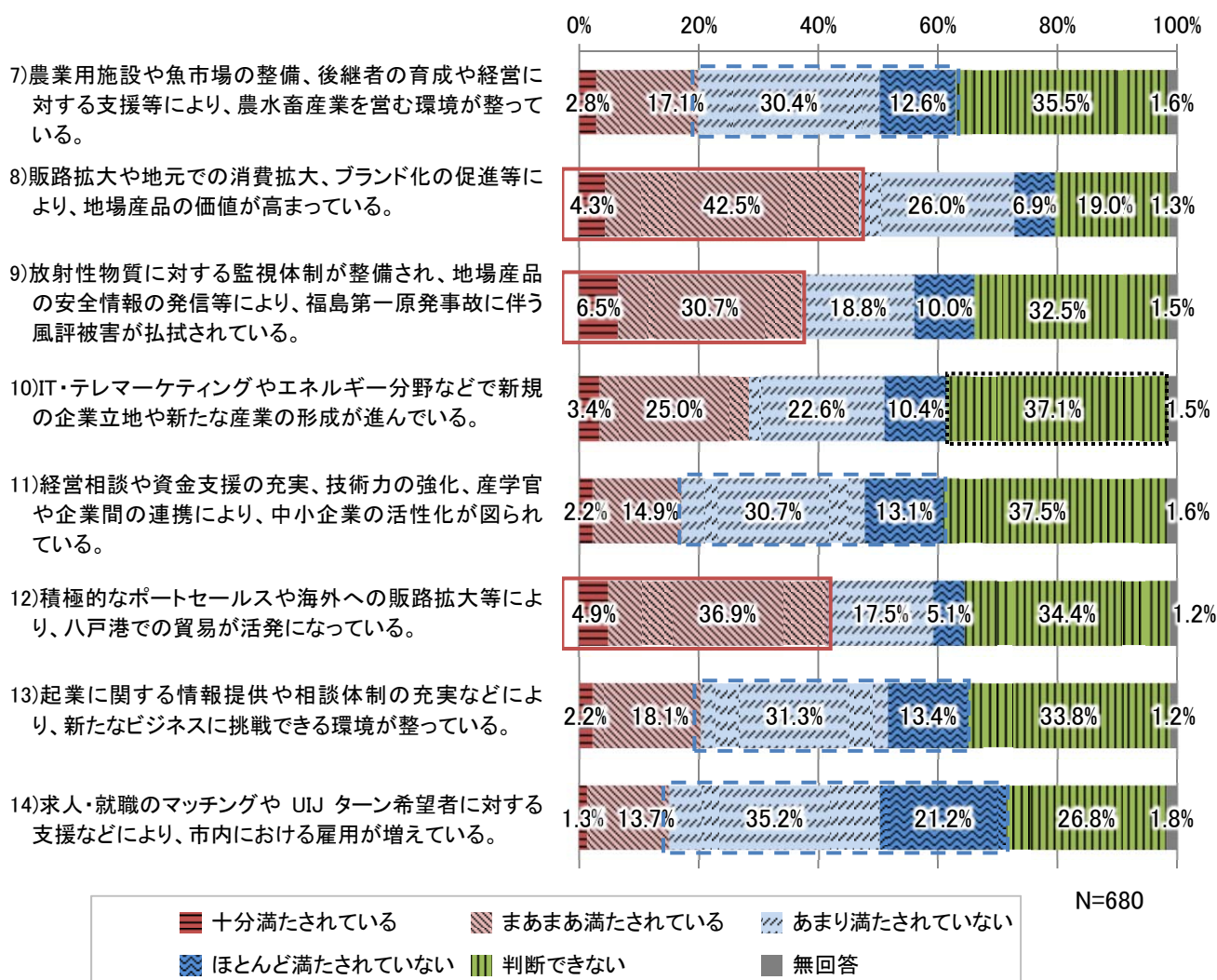
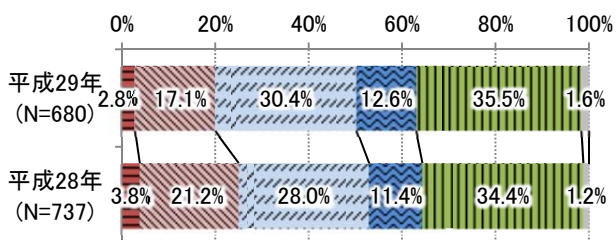


図 5 産業・雇用に関する分野の現状評価

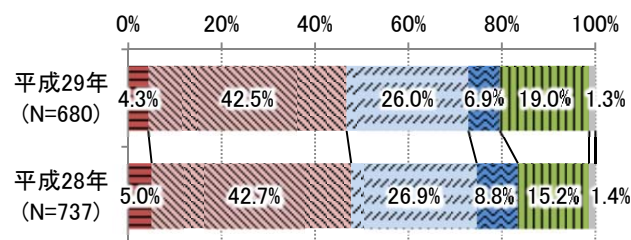
<前回の調査結果との比較>

■ 十分満たされている
 ■ まあまあ満たされている
 ■ あまり満たされていない
 ■ ほとんど満たされていない
 ■ 判断できない
 ■ 無回答

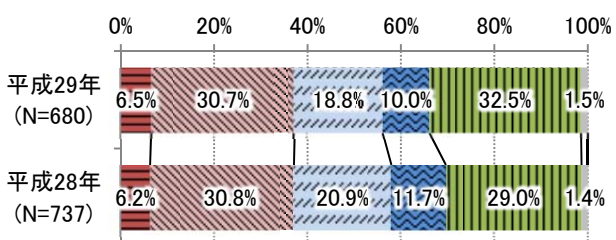
7) 農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている。



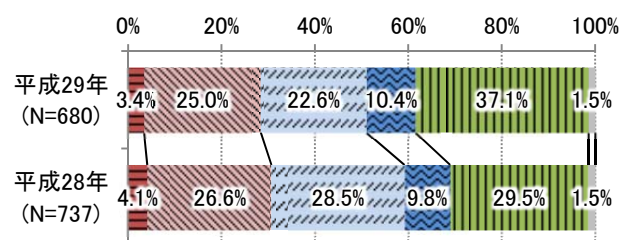
8) 販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場製品の価値が高まっている。



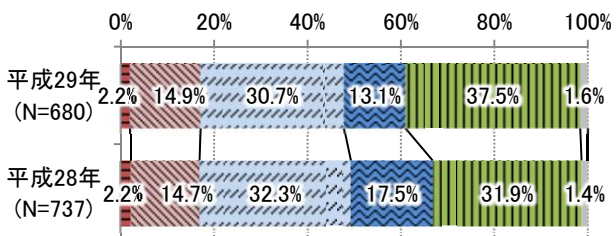
9) 放射性物質に対する監視体制が整備され、地場製品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている。



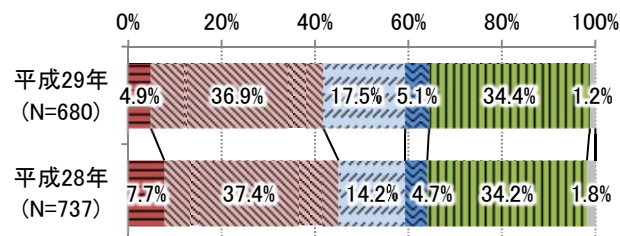
10) IT・テレマーケティングやエネルギー分野などで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる。



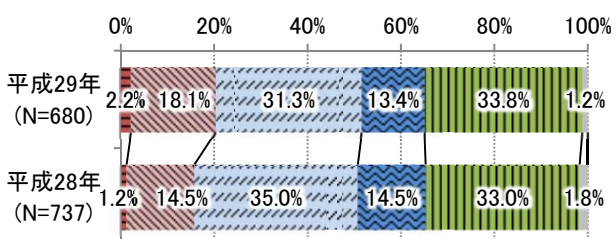
11) 経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている。



12) 積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている。



13) 起業に関する情報交換や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている。



14) 求人・就職のマッチングやUIJターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている。

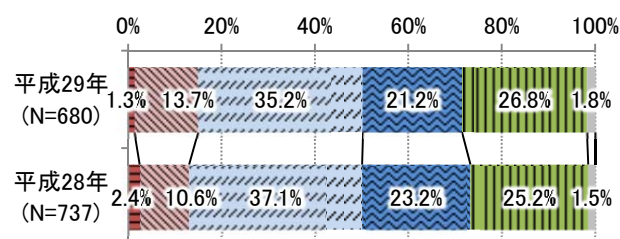


図 6 産業・雇用に関する分野における前回の調査結果との比較

③防災・健康・福祉に関する分野の現状評価

<今回の調査結果>

- 現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足度が高い回答をみると、「ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている」が約 69%と高く、次いで、「防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティ FM 等により、災害時における広報体制が充実している」が約 59%、「防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている」が約 56%、「小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている。」が約 55%、「避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている」が約 52%、「公共施設の改修・改築や民間建築物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている」が約 45%となっている。
- 一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満足度が高い回答をみると、「町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている」が約 39%となっている。
- また、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答をみると、「住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている」が約 44%となっている。

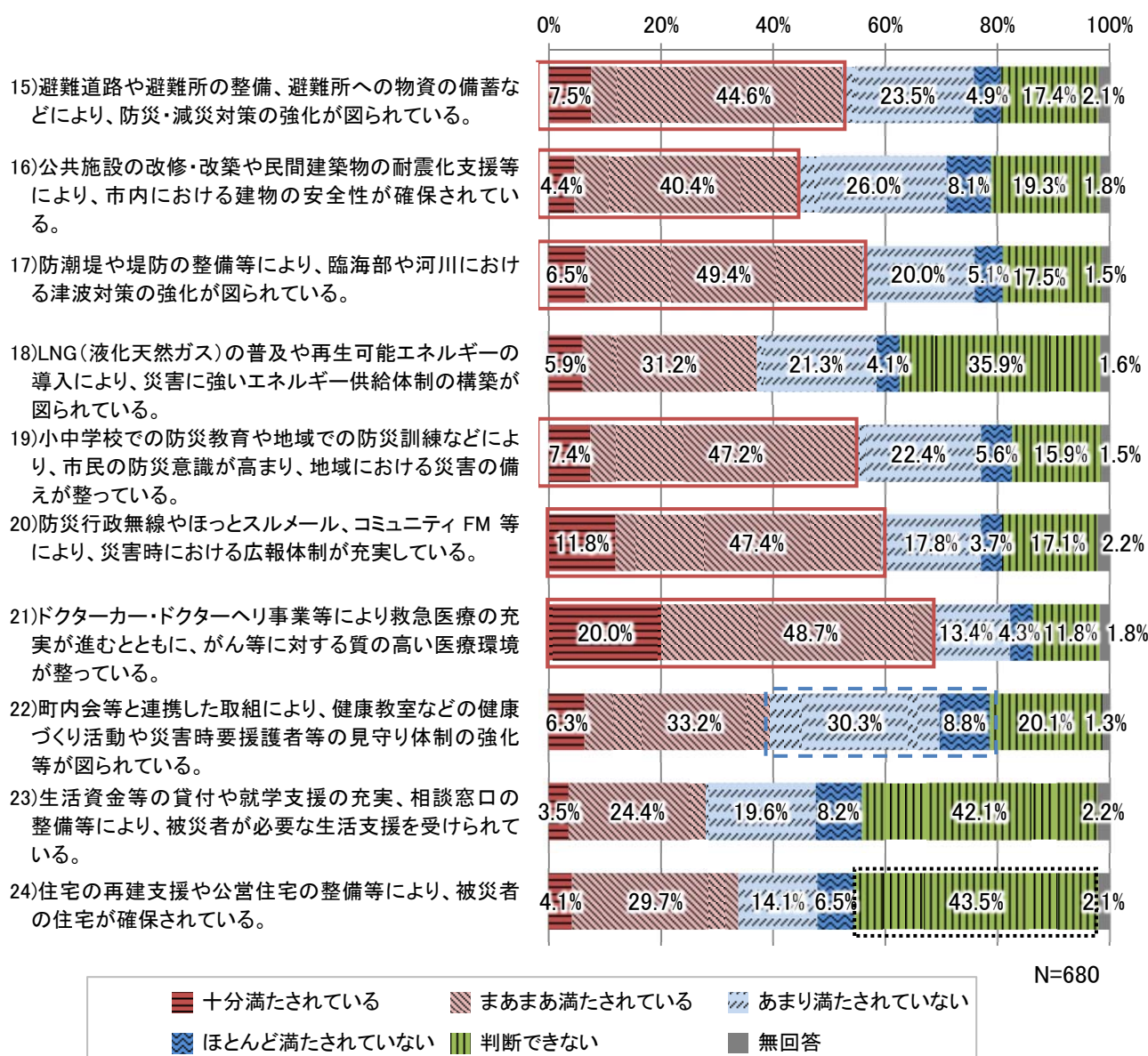
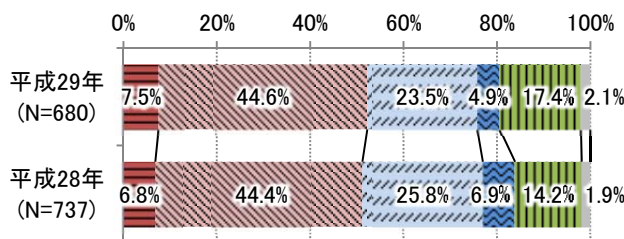


図 7 防災・健康・福祉に関する分野の現状評価

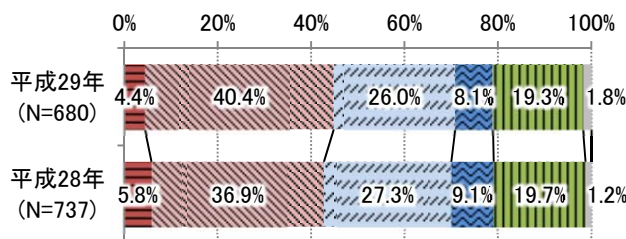
<前回の調査結果との比較>

■ 十分満たされている
 ■ まあまあ満たされている
 ■ あまり満たされていない
■ ほとんど満たされていない
■ 判断できない
■ 無回答

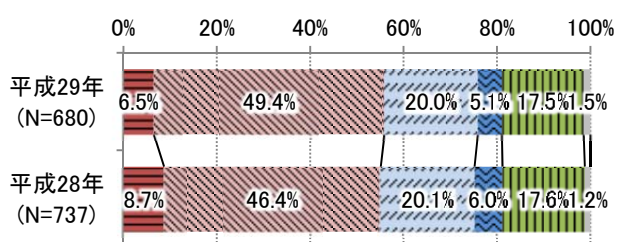
15) 避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている。



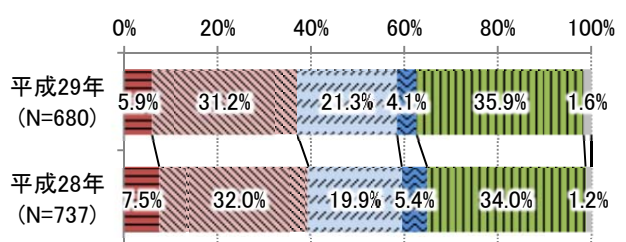
16) 公共施設の改修・改築や民間建造物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている。



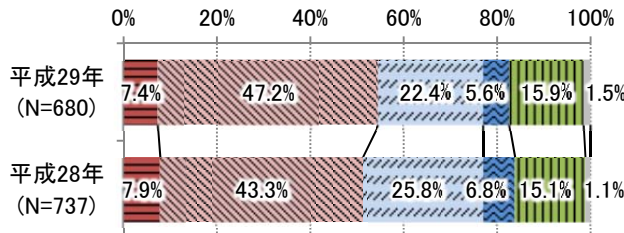
17) 防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている。



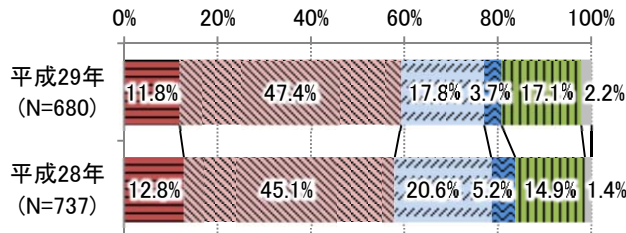
18) LNG（液化天然ガス）の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている。



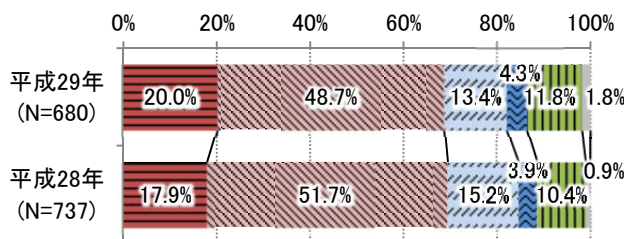
19) 小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている。



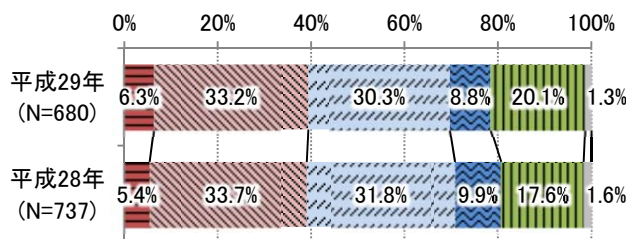
20) 防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティ FM 等により、災害時における広報体制が充実している。



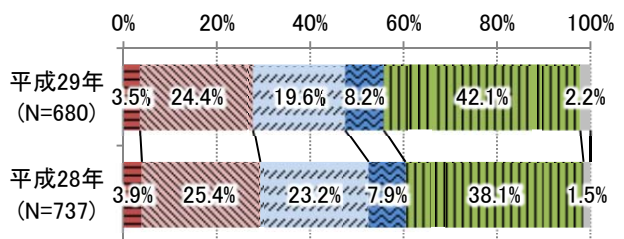
21) ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている。



22) 町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている。



23) 生活資金等の貸付や就学支援の充実、相談窓口の整備等により、被災者が必要な生活支援を受けられている。



24) 住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている。

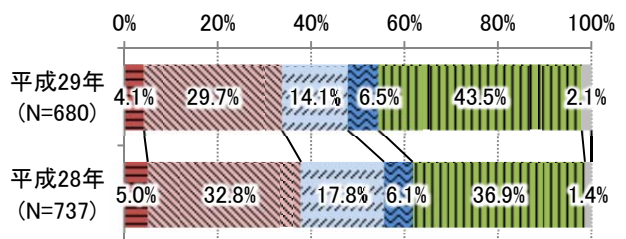


図 8 防災・健康・福祉に関する分野における前回の調査結果との比較

④文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野の現状評価

＜今回の調査結果＞

- 現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足度が高い回答をみると、「地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている」が約 51%と高く、次いで、「特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている」が 49%、「屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている」が約 48%となっている。
- 一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満足度が高い回答をみると、「公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している」が約 67%と高く、次いで、「まち歩きイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている」が約 64%、「外国語を含めた観光案内板やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている」が約51%、「観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光PRの強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している」が約 49%となっている。
- また、本分野については、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答はみられない。

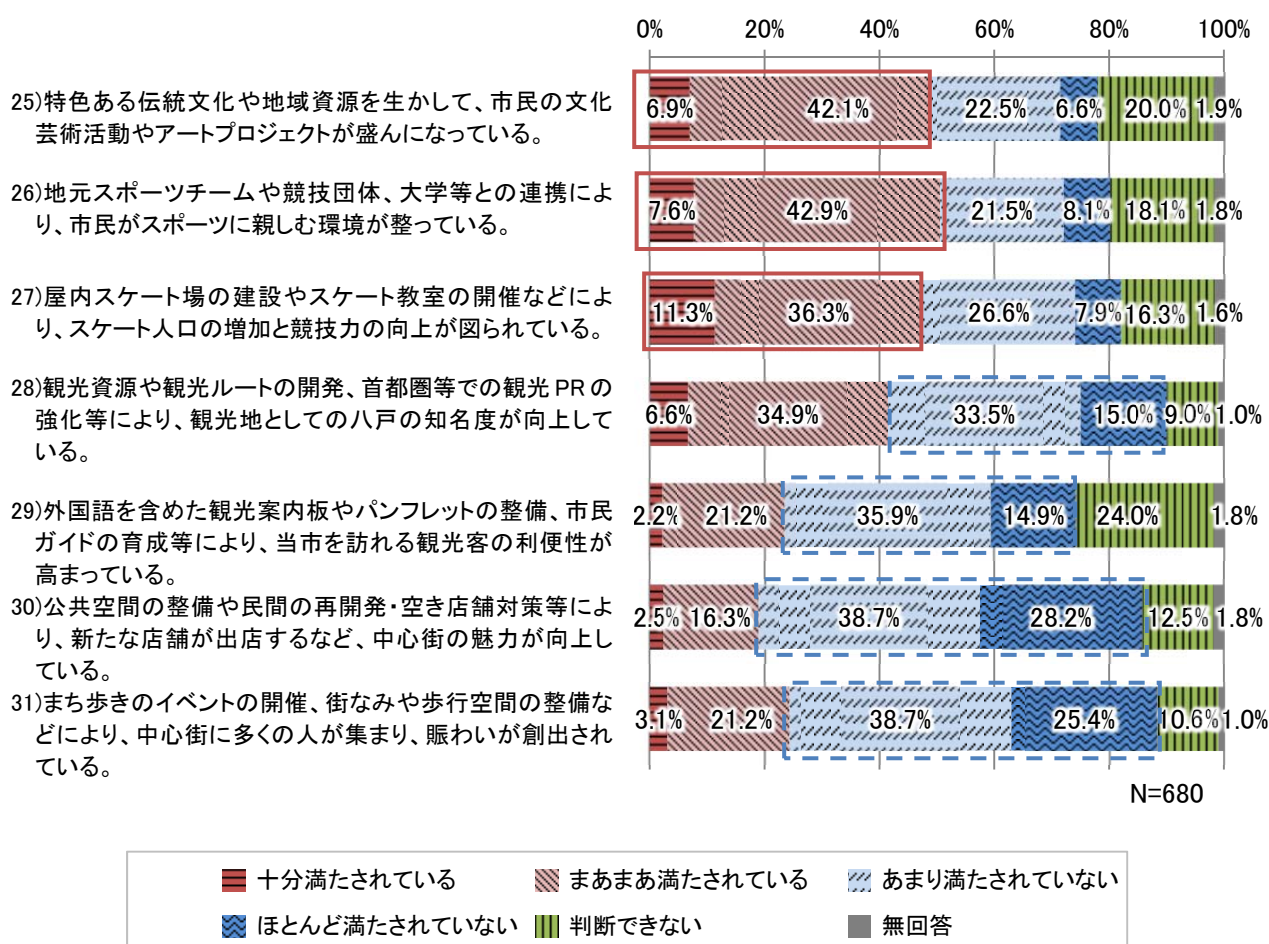
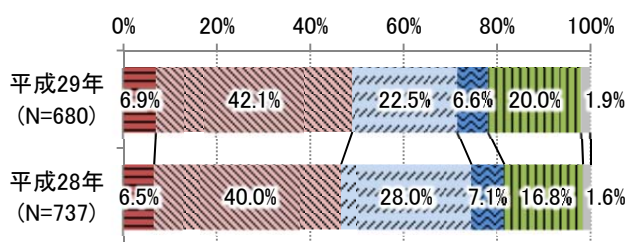


図 9 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野の現状評価

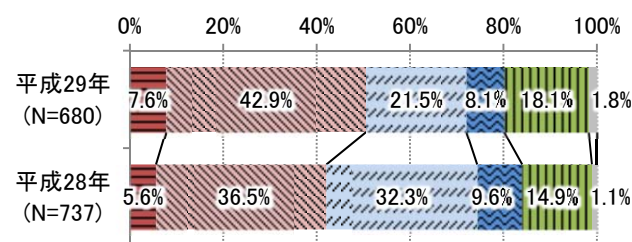
＜前回の調査結果との比較＞

■ 十分満たされている
 ■ まあまあ満たされている
 ■ あまり満たされていない
 ■ ほとんど満たされていない
 ■ 判断できない
 ■ 無回答

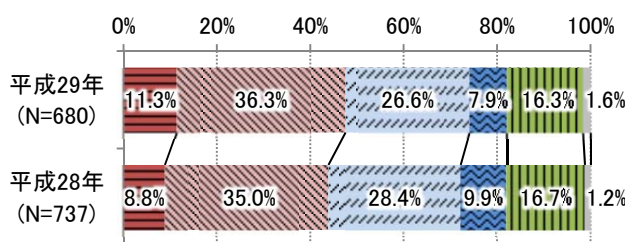
25) 特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている。



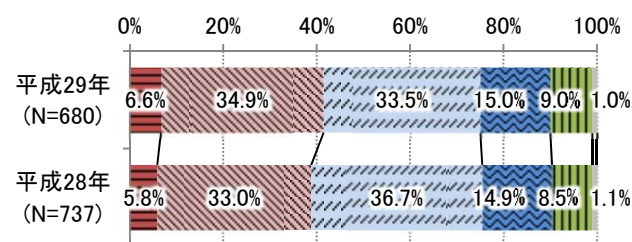
26) 地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている。



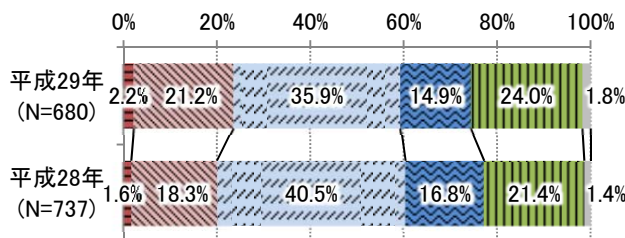
27) 屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている。



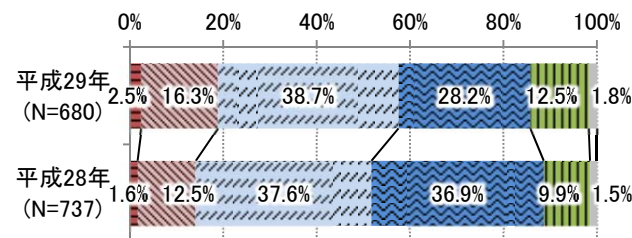
28) 観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光 PR の強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している。



29) 外国語を含めた観光案内板やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている。



30) 公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している。



31) まち歩きイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている。

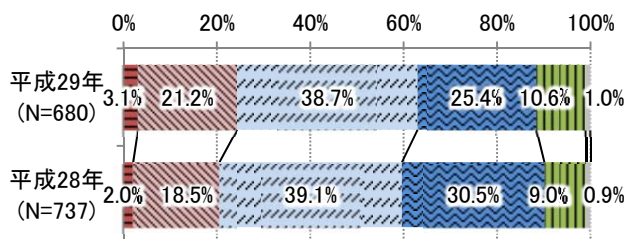


図 10 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野における前回の調査結果との比較

⑤市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野の現状評価

＜今回の調査結果＞

- 現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足度が高い回答をみると、「窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている」が68%と高く、次いで、「運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている」が約49%、「岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての八戸市の役割が高まっている」が約47%となっている。
- 一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満足度が高い回答をみると、「町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている」が約51%と高く、次いで、「地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力しあいながらまちづくりが進められている」が約42%となっている。
- また、本分野については、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答はみられない。

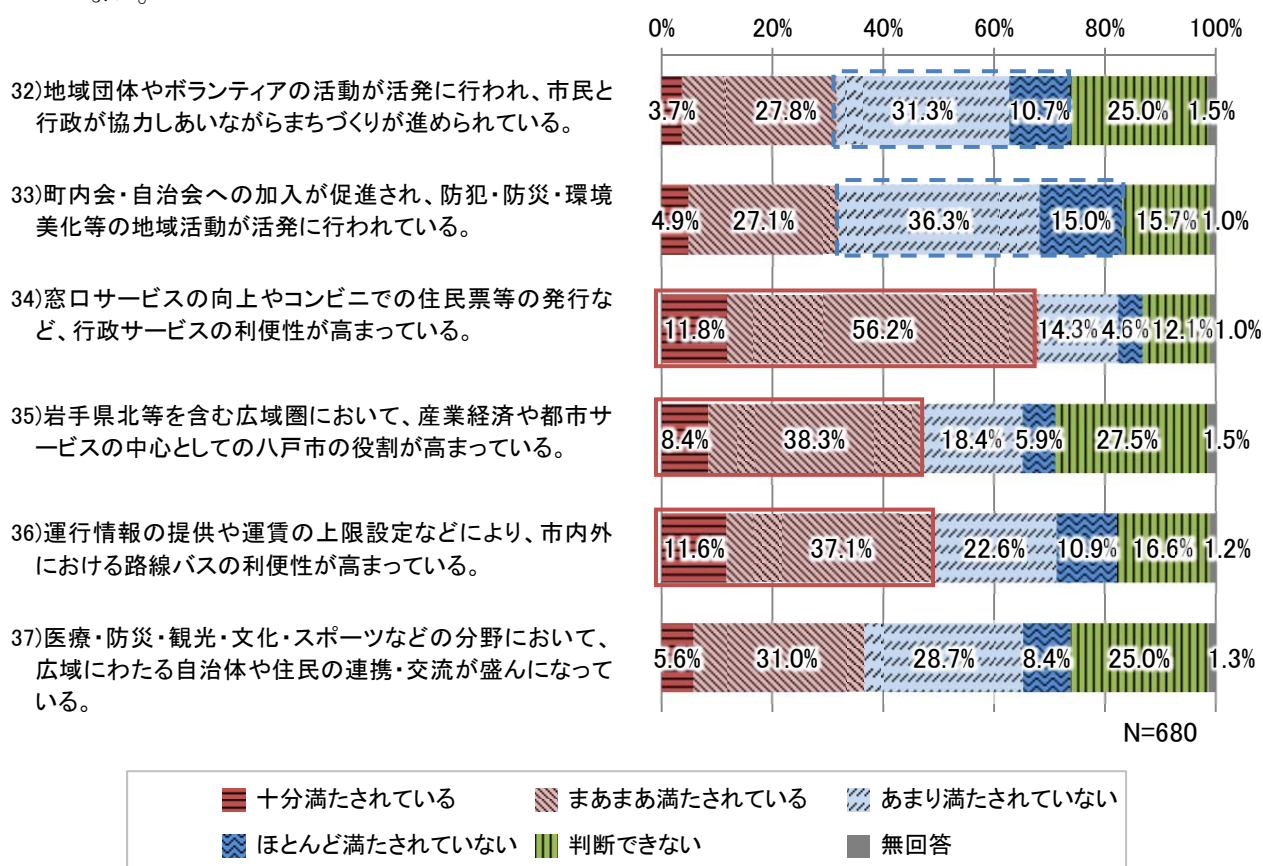
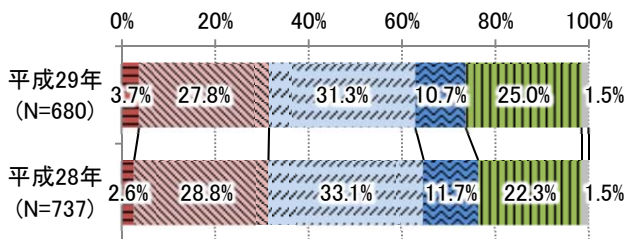


図 11 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野の現状評価

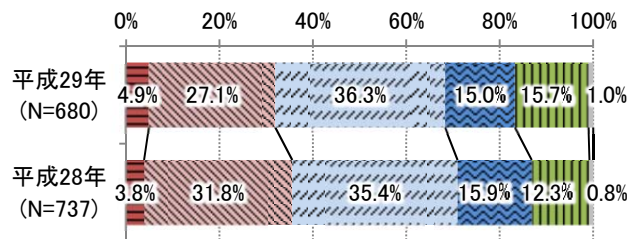
＜前回の調査結果との比較＞

十分満たされている
 まあまあ満たされている
 あまり満たされていない
 ほとんど満たされていない
 判断できない
 無回答

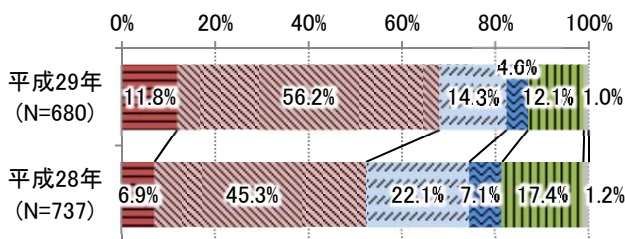
32) 地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力し合いながらまちづくりが進められている。



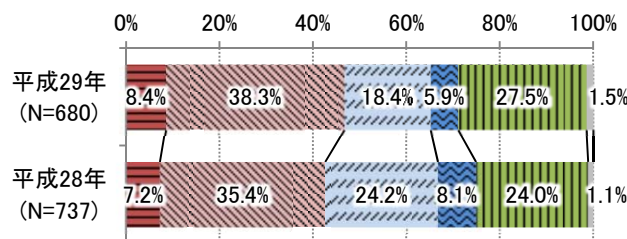
33) 町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている。



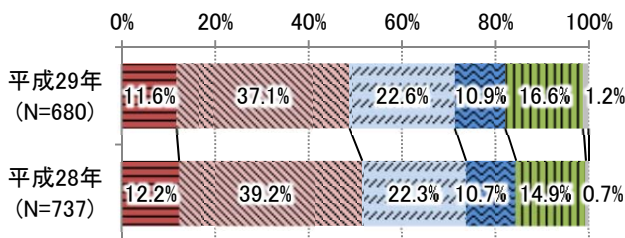
34) 窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている。



35) 岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての戸市の役割が高まっている。



36) 運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている。



37) 医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。

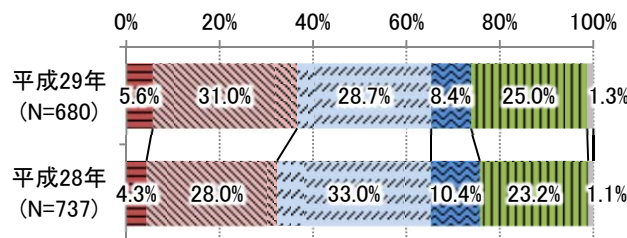


図 12 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野における前回の調査結果との比較

2. 全ての設問項目の満足度と認知度の位置関係

- 「十分満たされている」「まあまあ満たされている」を合わせた満足度が平均以上、かつ「判断できない」を除いた認知度が平均以上のエリアである“取組が広く知られ、その評価が高いゾングループ”には、子育て・教育・男女共同参画に関する分野から2項目、産業・雇用に関する分野から1項目、防災・健康・福祉に関する分野から7項目、文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野から4項目、市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野から2項目が含まれている。

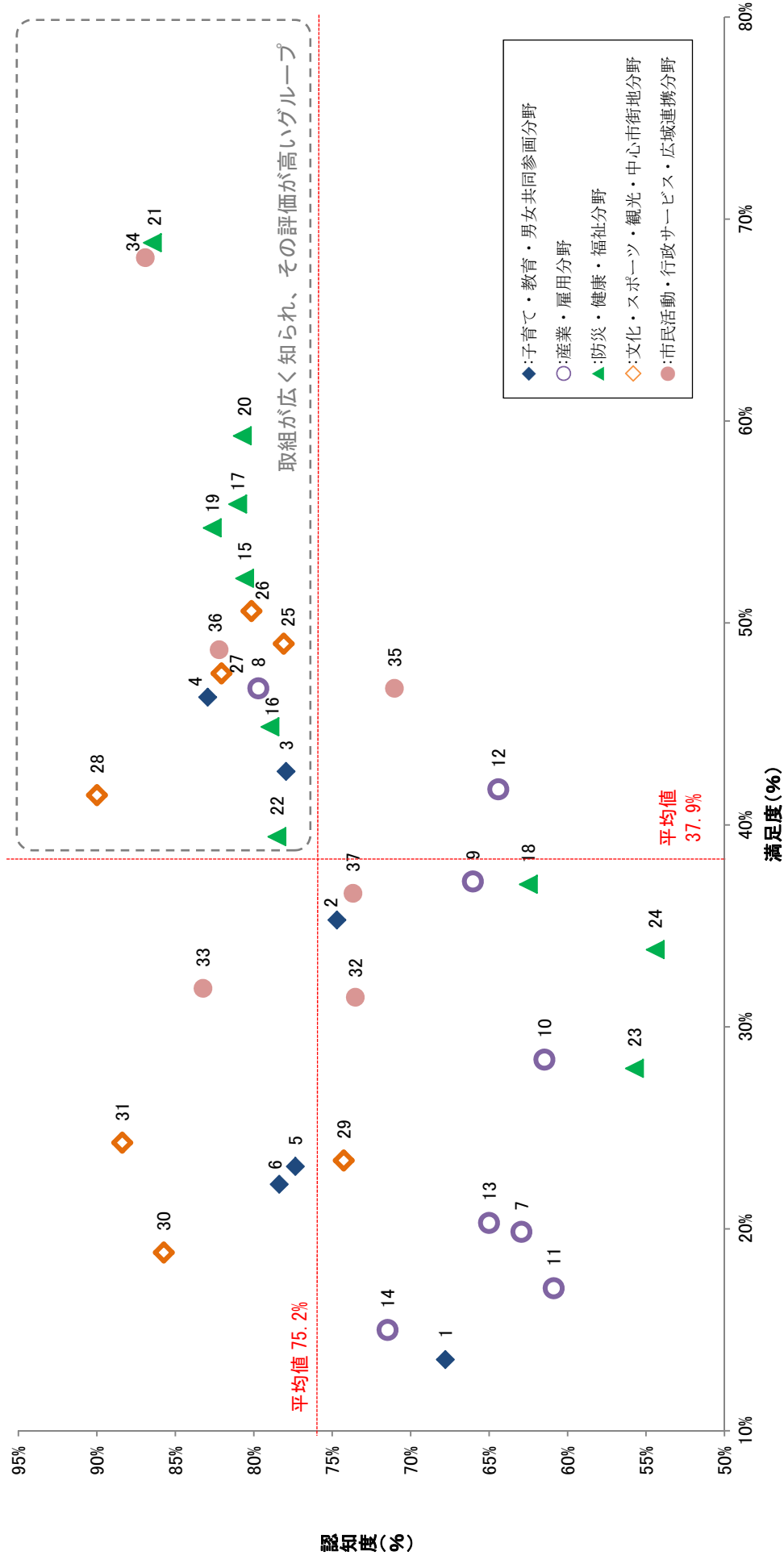


図 13 全ての設問項目の満足度と認知度の位置関係

※満足度：「十分満たされている」「まあまあ満たされている」を合わせた割合

認知度：「判断できない」を除いた、「十分満たされている」「まあまあ満たされている」「ほとんど満たされていない」「まったく満たされていない」を合わせた割合

【◆：子育て・教育・男女共同参画分野】

- 1 男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。
- 2 保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。
- 3 地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている。
- 4 本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる。
- 5 性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らしを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている。
- 6 結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性が活躍できる機会が増えている。

【○：産業・雇用分野】

- 7 農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている。
- 8 販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場産品の価値が高まっている。
- 9 放射性物質に対する監視体制が整備され、地場産品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている。
- 10 IT・テレマーケティングやエネルギーなどで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる。
- 11 経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている。
- 12 積極的なポートセロトールズや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている。
- 13 起業に関する情報交換や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている。
- 14 求人・就職のマッチングやUIJターナー希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている。

【▲：防災・健康・福祉分野】

- 15 避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている。
- 16 公共施設の改修・改築や民間建造物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている。
- 17 防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている。
- 18 LNG（液化天然ガス）の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている。
- 19 小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている。

※取組評価の高いグループ（図13の点線囲み部分）に含まれる項目を 波線 で表示

【▲：防災・健康・福祉分野】

- 20 防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティFM等により、災害時における広報体制が充実している。
- 21 ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている。
- 22 町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている。
- 23 生活資金等の貸付や就学支援の充実、相談窓口の整備等により、被災者が必要な生活支援を受けられている。
- 24 住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている。

【◇：文化・スポーツ・観光・中心市街地分野】

- 25 特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっっている。
- 26 地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている。
- 27 屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている。
- 28 観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光PRの強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している。
- 29 外国語を含めた観光案内板やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている。
- 30 公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している。
- 31 まち歩きイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている。

【●：市民活動・行政サービス・広域連携分野】

- 32 地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力し合いながらまちづくりが進められている。
- 33 町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている。
- 34 窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている。
- 35 岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての八戸市の役割が高まっている。
- 36 運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている。
- 37 医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。

表 6 設問項目別の満足度と認知度

項 目	満足度			認知度		
	平成 29 年	平成 28 年	増減	平成 29 年	平成 28 年	増減
1)結婚・出産の希望をかなえる施策の充実	13.5%	12.8%	0.7 pt	67.8%	73.2%	▲5.4 pt
2)地域と連携した子育て支援の充実	35.3%	32.8%	2.5 pt	74.7%	77.6%	▲2.9 pt
3)地域に密着した教育の推進	42.6%	40.8%	1.8 pt	77.9%	77.9%	0.0 pt
4)本のまち八戸の推進	46.3%	30.5%	15.8 pt	82.9%	83.9%	▲1.0 pt
5)男女共同参画意識の醸成	23.1%	21.8%	1.3 pt	77.4%	83.7%	▲6.3 pt
6)女性活躍の機会創出	22.2%	21.6%	0.6 pt	78.4%	82.1%	▲3.7 pt
7)生産体制の整備	19.9%	25.0%	▲5.1 pt	62.9%	64.4%	▲1.5 pt
8)販売力の強化	46.8%	47.8%	▲1.0 pt	79.7%	83.4%	▲3.7 pt
9)風評被害の防止	37.2%	37.0%	0.2 pt	66.0%	69.6%	▲3.6 pt
10)企業誘致の推進	28.4%	30.7%	▲2.3 pt	61.5%	69.0%	▲7.5 pt
11)中小企業等の活性化	17.1%	16.8%	0.3 pt	60.9%	66.7%	▲5.8 pt
12)貿易関連産業の振興	41.8%	45.0%	▲3.2 pt	64.4%	64.0%	0.4 pt
13)起業の促進	20.3%	15.7%	4.6 pt	65.0%	65.2%	▲0.2 pt
14)雇用・就業の支援	15.0%	13.0%	2.0 pt	71.5%	73.3%	▲1.8 pt
15)防災・減災対策の強化	52.2%	51.2%	1.0 pt	80.6%	83.9%	▲3.3 pt
16)建物の耐震化	44.9%	42.7%	2.2 pt	79.0%	79.1%	▲0.1 pt
17)海岸・河川の整備	55.9%	55.1%	0.8 pt	81.0%	81.2%	▲0.2 pt
18)エネルギー対策の充実	37.1%	39.5%	▲2.4 pt	62.5%	64.8%	▲2.3 pt
19)自助・共助による防災まちづくりの推進	54.7%	51.3%	3.4 pt	82.6%	83.8%	▲1.2 pt
20)防災体制の強化	59.3%	57.9%	1.4 pt	80.7%	83.7%	▲3.0 pt
21)質の高い医療環境の整備	68.8%	69.5%	▲0.7 pt	86.5%	88.7%	▲2.2 pt
22)地域における保健・福祉の充実	39.4%	39.1%	0.3 pt	78.5%	80.8%	▲2.3 pt
23)生活支援の充実	27.9%	29.3%	▲1.4 pt	55.7%	60.4%	▲4.7 pt
24)住宅確保の支援	33.8%	37.9%	▲4.1 pt	54.4%	61.7%	▲7.3 pt
25)アートのまちづくりの推進	49.0%	46.5%	2.5 pt	78.1%	81.6%	▲3.5 pt
26)地域スポーツの活性化	50.6%	42.1%	8.5 pt	80.1%	84.0%	▲3.9 pt
27)氷都八戸の再生	47.5%	43.8%	3.7 pt	82.1%	82.1%	0.0 pt
28)観光ブランドの強化	41.5%	38.8%	2.7 pt	90.0%	90.4%	▲0.4 pt
29)おもてなしの充実	23.4%	19.9%	3.5 pt	74.3%	77.2%	▲2.9 pt
30)都市機能の集積	18.8%	14.1%	4.7 pt	85.7%	88.6%	▲2.9 pt
31)回遊性の向上	24.3%	20.5%	3.8 pt	88.4%	90.1%	▲1.7 pt
32)協働の仕組みづくりの推進	31.5%	31.3%	0.2 pt	73.5%	76.2%	▲2.7 pt
33)町内会等の活性化	31.9%	35.5%	▲3.6 pt	83.2%	86.9%	▲3.7 pt
34)業務改善によるサービス向上	68.1%	52.2%	15.8 pt	86.9%	81.4%	5.5 pt
35)拠点機能の強化	46.8%	42.6%	4.2 pt	71.0%	74.9%	▲3.9 pt
36)交通ネットワークの充実	48.7%	51.4%	▲2.7 pt	82.2%	84.4%	▲2.2 pt
37)広域連携の推進	36.6%	32.3%	4.3 pt	73.7%	75.7%	▲2.0 pt

※満足度：「十分満たされている」「まあまあ満たされている」を合わせた割合

認知度：「判断できない」を除いた、「十分満たされている」「まあまあ満たされている」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」を合わせた割合

増 減：上昇している上位 5 項目を赤色、低下している下位 5 項目を青色で表示している。

3. 八戸市に対する愛着や誇り

(1) 八戸市に対する愛着

- 「愛着を感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせた割合は、平成 29 年で約 86% となっており、平成 28 年の約 87% より 1 ポイント減少している。

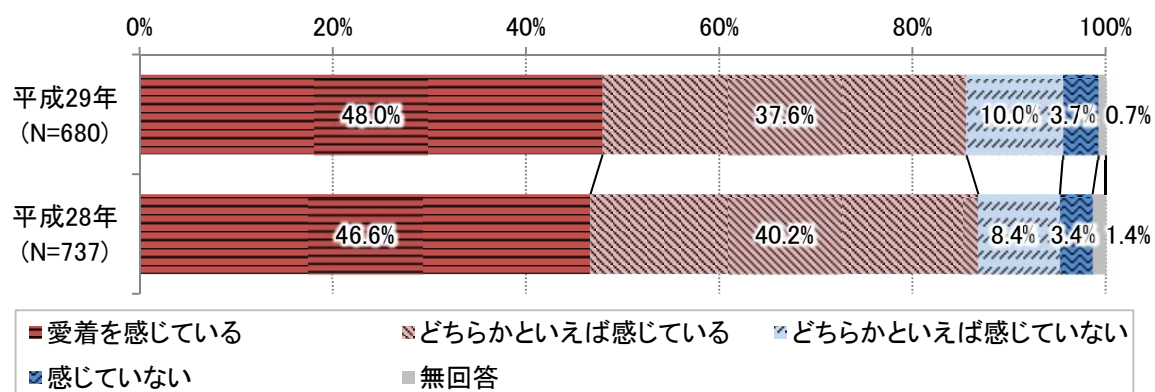


図 14 八戸市に対する愛着

(2) 八戸市に対する誇り

- 「誇りを感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせた割合は、平成 29 年で約 72% となっており、平成 28 年の約 73% より 1 ポイント減少している。

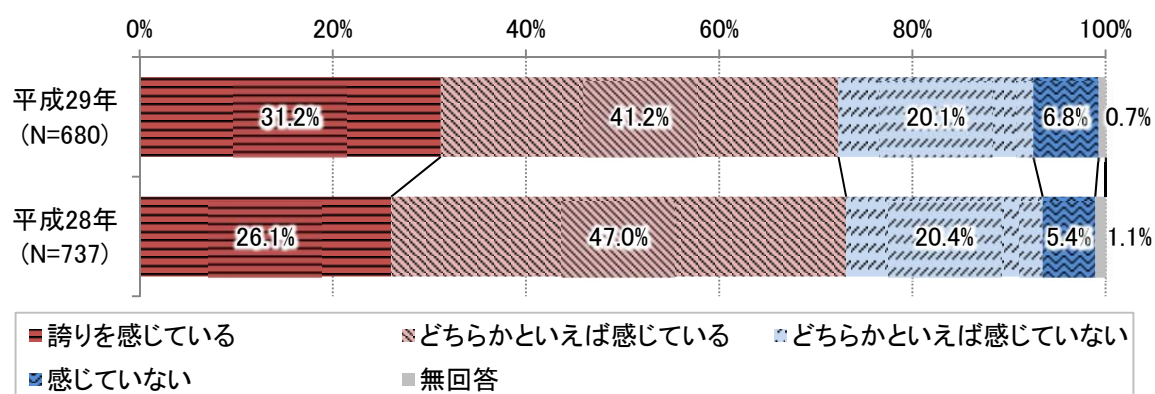


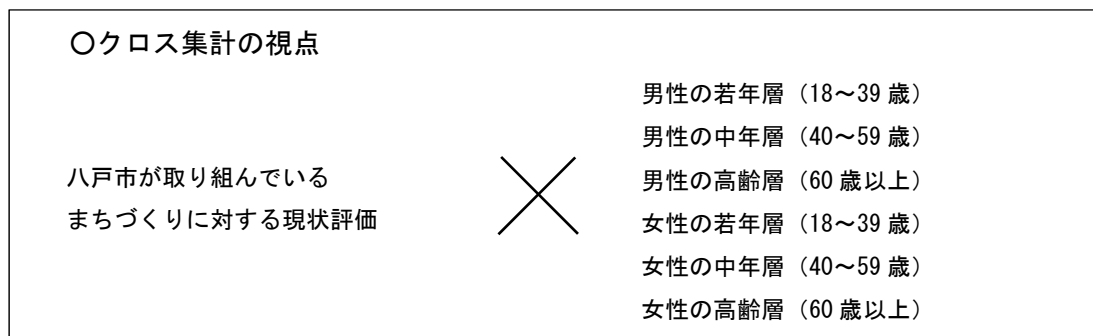
図 15 八戸市に対する誇り

Ⅳ クロス集計

1. クロス集計の考え方

(1) 属性別のまちづくりに対する現状評価

- 八戸市が取り組んでいるまちづくりに対する現状評価の回答は、性別や世代によって傾向が異なるものと考えられる。
- したがって、計画の進行管理を行っていくうえで、どのような取組によりどの年齢層に効果があったのかを検証するために、以下の区分でクロス集計を行った。なお、年齢層は 10～30 代を若年層、40～50 代を中年層、60 代以上を高年齢層としている。

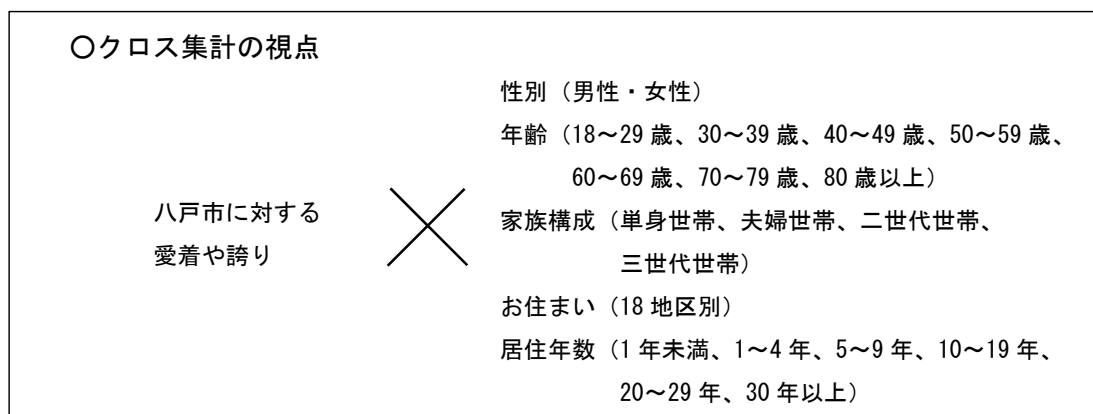


- 現状評価については、各分野の設問項目（施策・事業）に対する 4 段階評価の結果を点数化し、性別や世代別の傾向が視覚的に把握できるようにレーダーチャートに整理した。
- 点数化は以下の考えで行った。「判断できない」については、評価の対象から外すため無回答と同じ区分とした。

○現状評価の点数化			
十分満たされている	・・・	4 点	
まあまあ満たされている	・・・	3 点	
あまり満たされていない	・・・	2 点	
ほとんど満たされていない	・・・	1 点	
判断できない	・・・	評価なし（無回答と同じ）	

(2) 属性別の八戸市に対する愛着や誇り

- 八戸市に対する愛着や誇りの回答は地域との関わりや地域での居住年数などが影響していることから、性別や年齢、家族構成、お住まい、居住年数等によって傾向が異なるものと考えられる。
- したがって、ライフスタイルの違いによって愛着や誇りをどのように感じているのかを検証するために、以下の区分でクロス集計を行った。



(3) 年齢別・居住年数別の施策の認知度

- まちづくりに対する現状評価では、「判断できない」との回答が一定数存在するが、計画の進行管理を実施するにあたって、できる限り多くの方に評価してもらうことが重要となる。
- したがって、取組の認知度(現状評価のうち「判断できない」を除いた割合)と年齢別・居住年数別との関係性を検証するために、以下の区分でクロス集計を行った。

○クロス集計の視点

八戸市が取り組んでいる
まちづくりに対する認知度
(「判断できない」を除いた割合)



年齢 (18～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳、
60～69 歳、70～79 歳、80 歳以上)
居住年数 (1 年未満、1～4 年、5～9 年、10～19 年、
20～29 年、30 年以上)

2. 属性別のまちづくりに対する現状評価

(1) 子育て・教育・男女共同参画に関する分野

<今回の調査結果>

- 「男女の出会いの場の創出や安心して子供を産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている」の項目は、全体と比べて男女の若年層の現状評価が低い。
- 「地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている」の項目は、全体と比べて男女の若年層の現状評価が低い一方、男性の高齢層で現状評価が高い。

表 7 子育て・教育・男女共同参画に関する分野の現状評価[年齢層別] (単位: 点)

項 目	男性			女性			全 体
	若	中	高	若	中	高	
1) 男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。	1.7	2.0	2.1	1.7	2.1	2.0	2.0
2) 保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。	2.3	2.4	2.4	2.2	2.4	2.5	2.4
3) 地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている。	2.3	2.5	2.6	2.4	2.5	2.5	2.5
4) 本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる。	2.4	2.5	2.5	2.5	2.6	2.4	2.5
5) 性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らしを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている。	2.3	2.2	2.1	2.1	2.0	2.0	2.1
6) 結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性が活躍できる機会が増えている。	2.2	2.1	2.1	1.9	2.0	2.1	2.1

※「若」: 若年層(18～39 歳)、「中」: 中年層(40～59 歳)、「高」: 高齢層(60 歳以上)

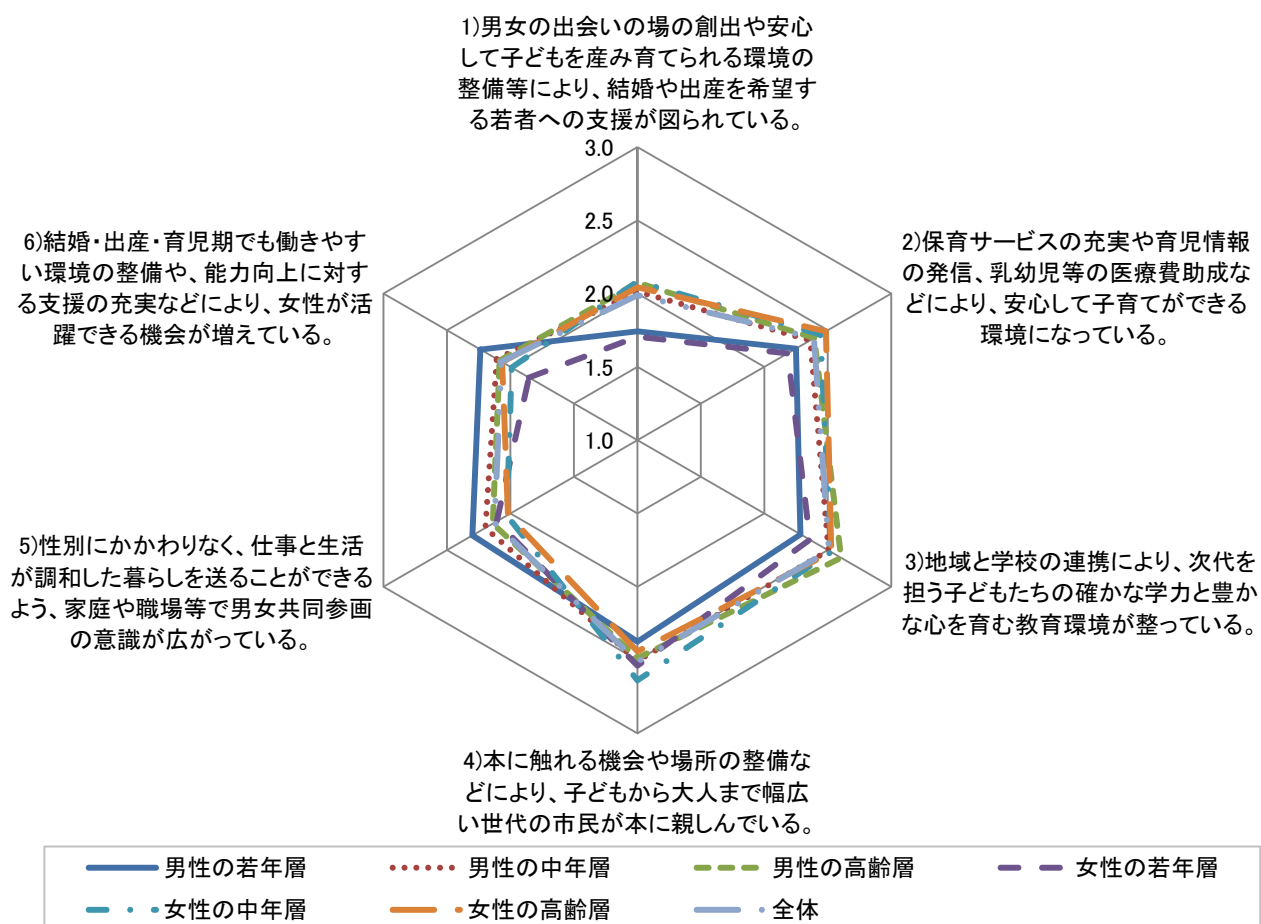
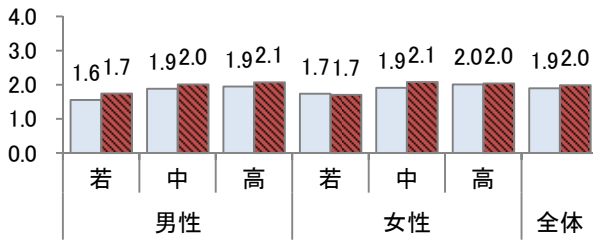


図 16 子育て・教育・男女共同参画に関する分野の現状評価[年齢層別]

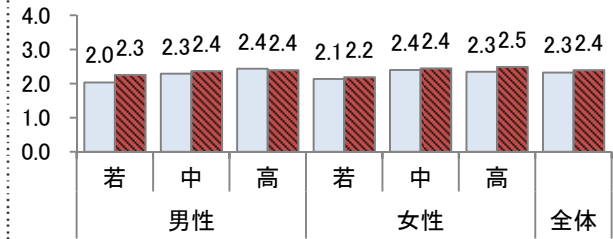
<前回の調査結果との比較>

□ 平成28年 ■ 平成29年

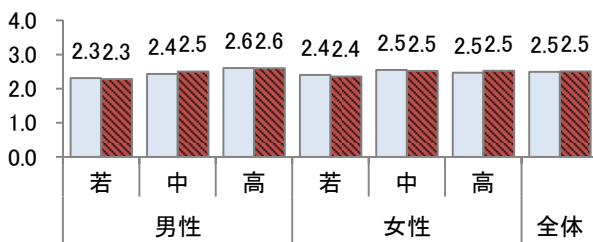
1) 男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。



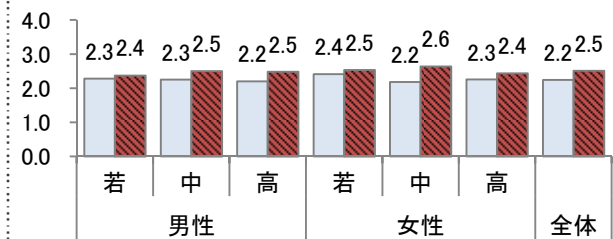
2) 保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。



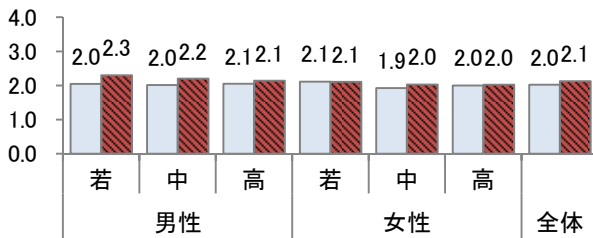
3) 地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている。



4) 本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる。



5) 性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らしを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている。



6) 結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性が活躍できる機会が増えている。

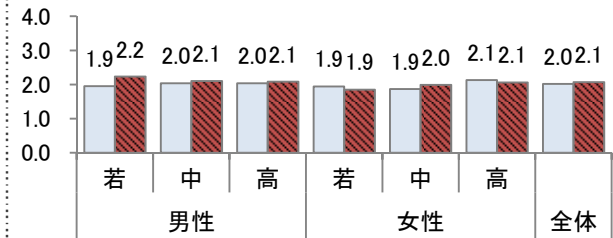


図 17 子育て・教育・男女共同参画に関する分野における前回の調査結果との比較[年齢層別]

(2) 産業・雇用に関する分野

<今回の調査結果>

- 「積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている」の項目は、全体に比べると男性の若年層と女性の中年層の現状評価が低い。
- 「求人・就職のマッチングやUIJターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている」の項目は、男性の中年層以上と女性の高齢層が全体に比べて現状評価が高い一方、女性の中年層では現状評価が低い。

表 8 産業・雇用に関する分野の現状評価[年齢層別]

(単位:点)

項 目	男性			女性			全 体
	若	中	高	若	中	高	
7) 農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている。	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.2	2.2
8) 販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場製品の価値が高まっている。	2.5	2.6	2.5	2.5	2.6	2.6	2.6
9) 放射性物質に対する監視体制が整備され、地場製品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている。	2.8	2.8	2.4	2.4	2.5	2.4	2.5
10) IT・テレマーケティングやエネルギー分野などで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる。	2.3	2.5	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3
11) 経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている。	2.2	2.2	2.2	1.9	1.9	2.1	2.1
12) 積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている。	2.5	2.7	2.7	2.6	2.5	2.7	2.6
13) 起業に関する情報交換や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている。	2.0	2.2	2.2	1.9	2.1	2.2	2.1
14) 求人・就職のマッチングやUIJターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている。	1.9	2.0	2.0	1.9	1.8	2.0	1.9

※「若」:若年層(18~39歳)、「中」:中年層(40~59歳)、「高」:高齢層(60歳以上)

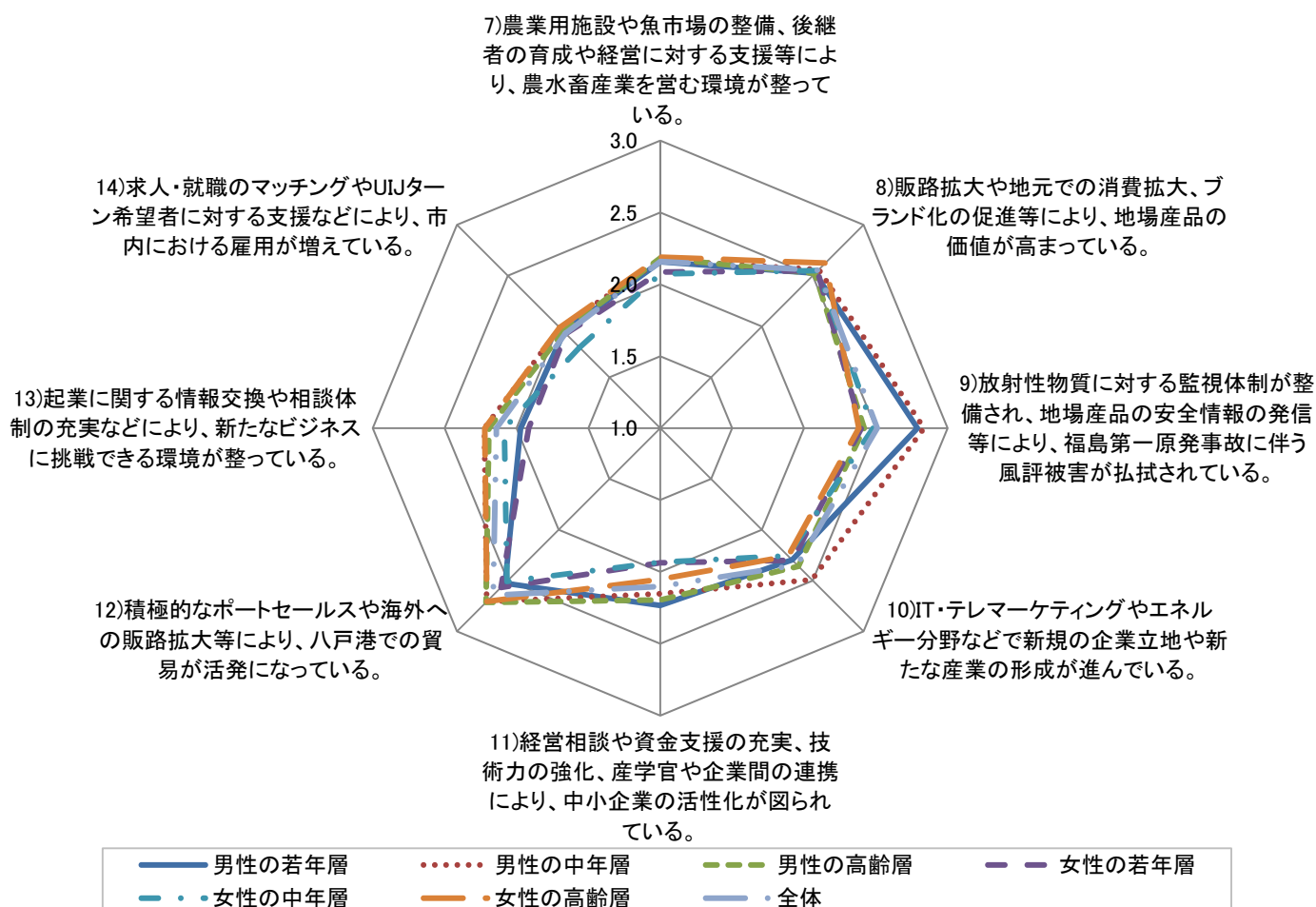
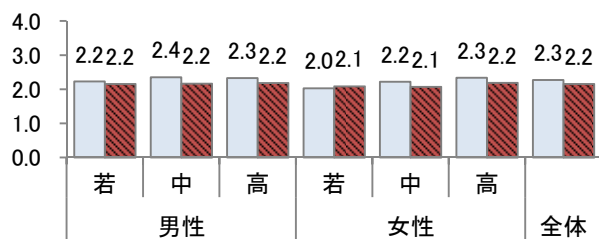


図 18 産業・雇用に関する分野の現状評価[年齢層別]

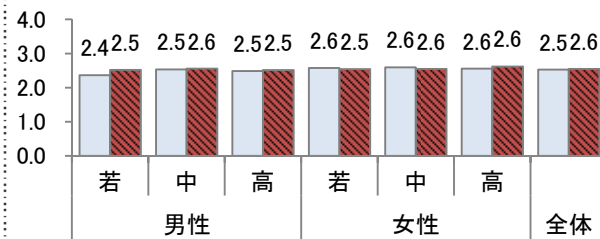
＜前回の調査結果との比較＞

□ 平成28年 ■ 平成29年

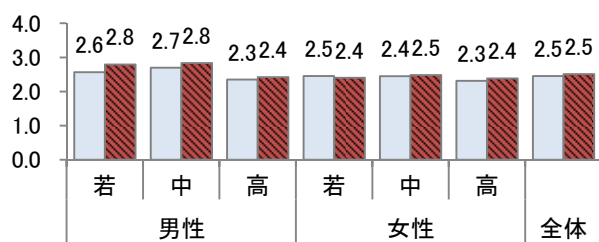
7) 農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている。



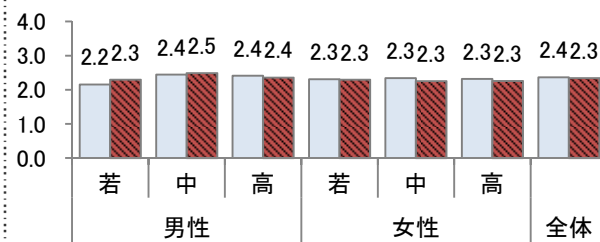
8) 販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場産品の価値が高まっている。



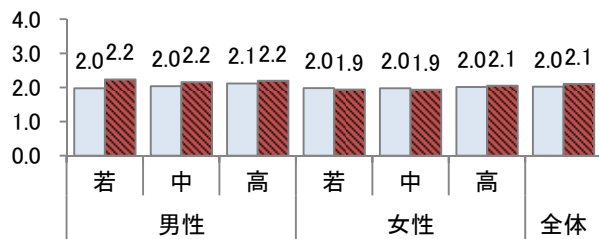
9) 放射性物質に対する監視体制が整備され、地場産品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている。



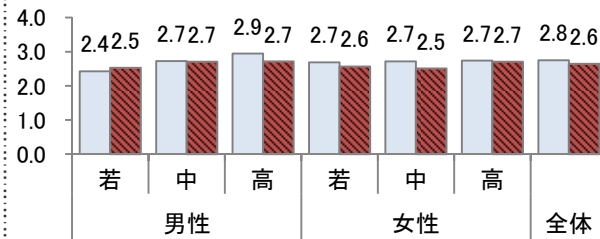
10) IT・テレマーケティングやエネルギー分野などで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる。



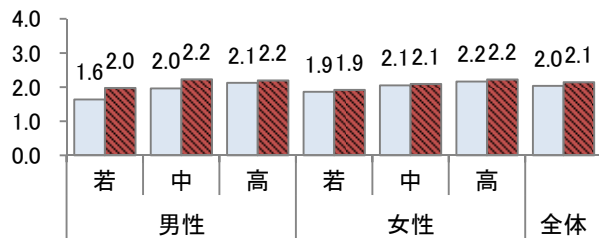
11) 経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている。



12) 積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている。



13) 起業に関する情報交換や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている。



14) 求人・就職のマッチングやUIJターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている。

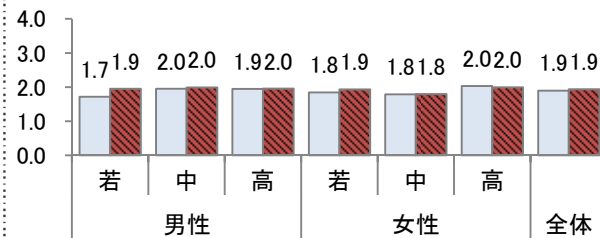


図 19 産業・雇用に関する分野における前回の調査結果との比較[年齢層別]

(3) 防災・健康・福祉に関する分野

<今回の調査結果>

- 「防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティ FM 等により、災害時における広報体制が充実している」の項目は、全体と比べて男女の中年層以下の現状評価が高い。
- 「ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている」の項目は、すべての年齢層で評価が高い。

表 9 防災・健康・福祉に関する分野の現状評価[年齢層別]

(単位: 点)

項 目	男性			女性			全 体
	若	中	高	若	中	高	
15) 避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている。	2.7	2.7	2.7	2.8	2.6	2.6	2.7
16) 公共施設の改修・改築や民間建造物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている。	2.6	2.5	2.4	2.6	2.7	2.5	2.5
17) 防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている。	2.8	2.7	2.7	2.8	2.7	2.6	2.7
18) LNG（液化天然ガス）の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている。	2.8	2.6	2.7	2.5	2.7	2.5	2.6
19) 小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている。	2.7	2.6	2.6	2.8	2.8	2.6	2.7
20) 防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティ FM 等により、災害時における広報体制が充実している。	2.9	3.0	2.6	3.1	2.9	2.7	2.8
21) ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている。	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9	3.0	3.0
22) 町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている。	2.5	2.4	2.3	2.5	2.6	2.6	2.5
23) 生活資金等の貸付や就学支援の充実、相談窓口の整備等により、被災者が必要な生活支援を受けられている。	2.5	2.3	2.4	2.5	2.3	2.6	2.4
24) 住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている。	2.4	2.5	2.5	2.7	2.6	2.7	2.6

※「若」: 若年層(18～39 歳)、「中」: 中年層(40～59 歳)、「高」: 高齢層(60 歳以上)

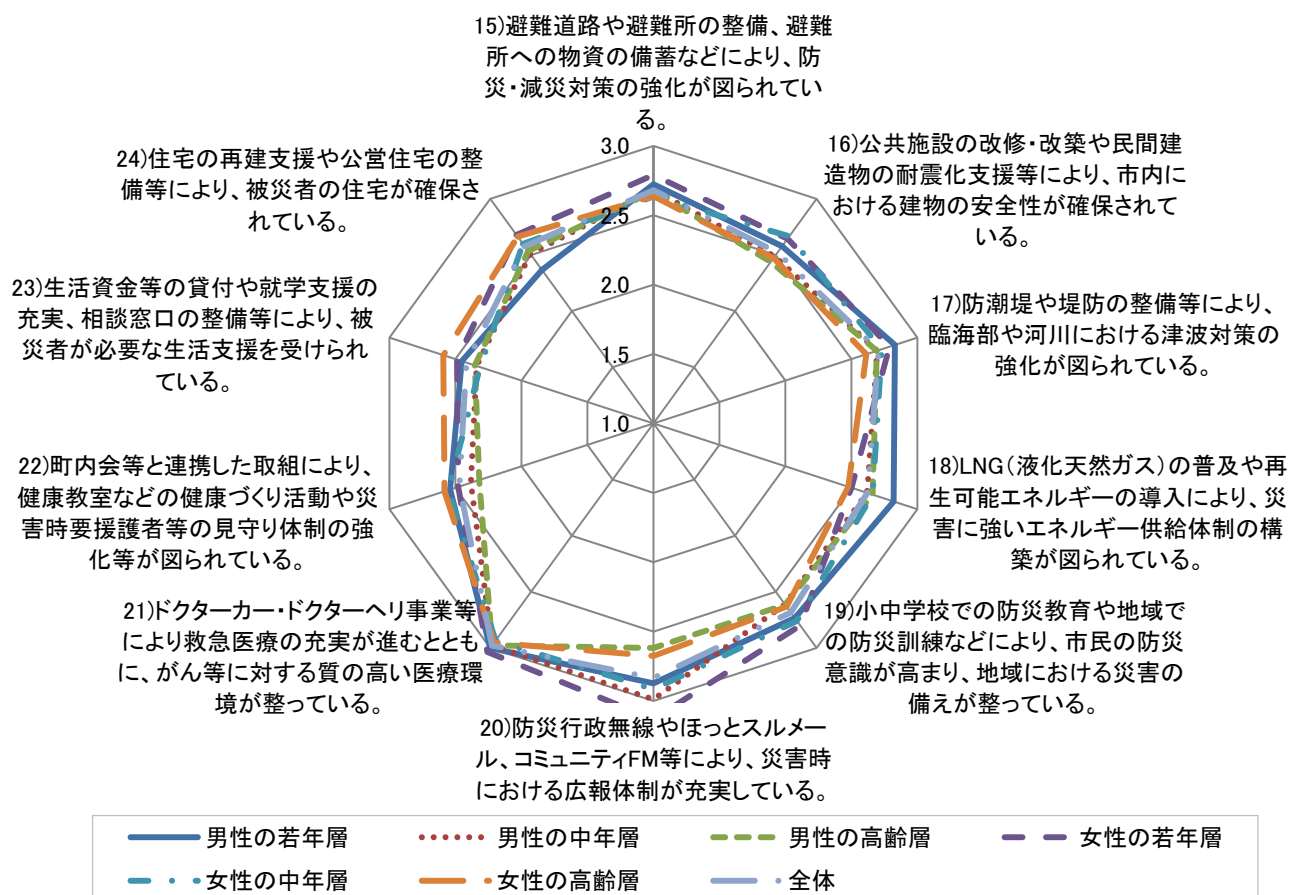
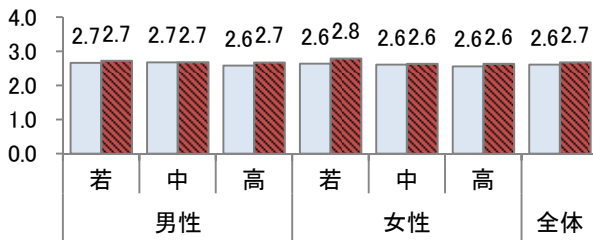


図 20 防災・健康・福祉に関する分野の現状評価[年齢層別]

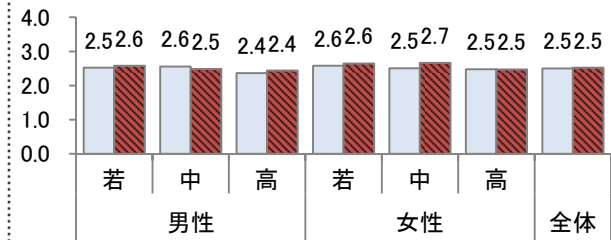
＜前回の調査結果との比較＞

□ 平成28年 ■ 平成29年

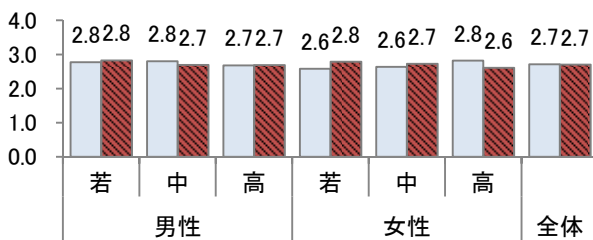
15) 避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている。



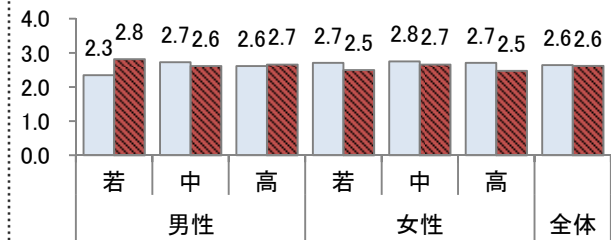
16) 公共施設の改修・改築や民間建造物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている。



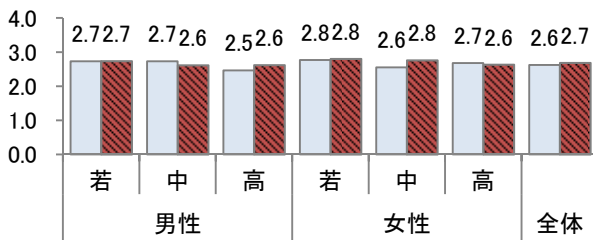
17) 防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている。



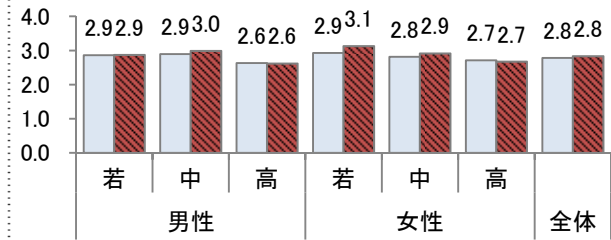
18) LNG（液化天然ガス）の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている。



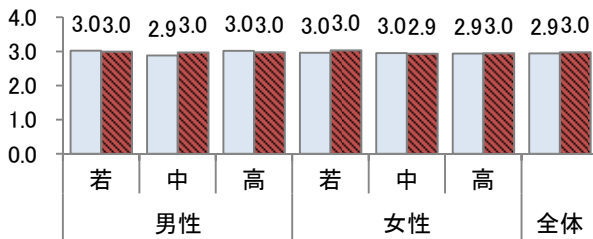
19) 小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている。



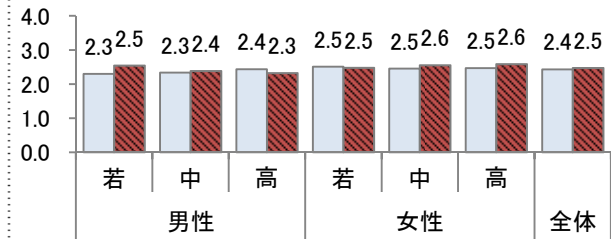
20) 防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティ FM 等により、災害時における広報体制が充実している。



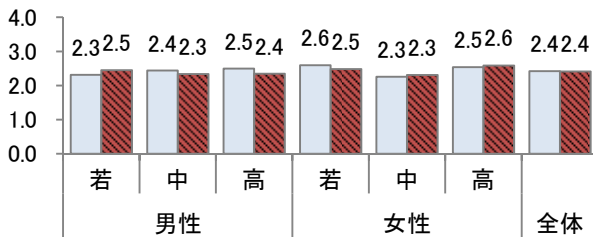
21) ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている。



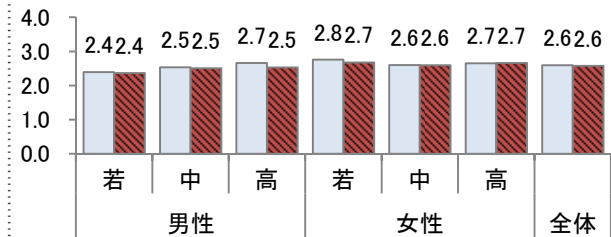
22) 町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている。



23) 生活資金等の貸付や就学支援の充実、相談窓口の整備等により、被災者が必要な生活支援を受けられている。



24) 住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている。



※「若」：若年層（18～39 歳）、「中」：中年層（40～59 歳）、「高」：高齢層（60 歳以上）

図 21 防災・健康・福祉に関する分野における前回の調査結果との比較[年齢層別]

(4) 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野

<今回の調査結果>

- 「特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている」の項目は、全体に比べて女性の中年層以上の現状評価が高い。
- 「屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている」の項目は、全体に比べて男女の若年層の現状評価が高く、特に女性の若年層が最も高い。
- 「公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している」の項目は、全体に比べて男女の若年層以下の評価が低い。

表 10 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野の現状評価[年齢層別] (単位: 点)

項 目	男性			女性			全 体
	若	中	高	若	中	高	
25) 特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている。	2.5	2.6	2.6	2.5	2.7	2.8	2.6
26) 地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている。	2.5	2.7	2.5	2.8	2.6	2.7	2.6
27) 屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている。	2.8	2.5	2.6	2.9	2.6	2.6	2.6
28) 観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光PRの強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している。	2.3	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4	2.4
29) 外国語を含めた観光案内板やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている。	2.2	2.3	2.0	2.2	2.1	2.2	2.1
30) 公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している。	1.8	1.9	2.0	1.8	1.9	2.0	1.9
31) まち歩きイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている。	1.9	2.0	2.0	1.9	2.0	2.1	2.0

※「若」: 若年層(18～39 歳)、「中」: 中年層(40～59 歳)、「高」: 高齢層(60 歳以上)

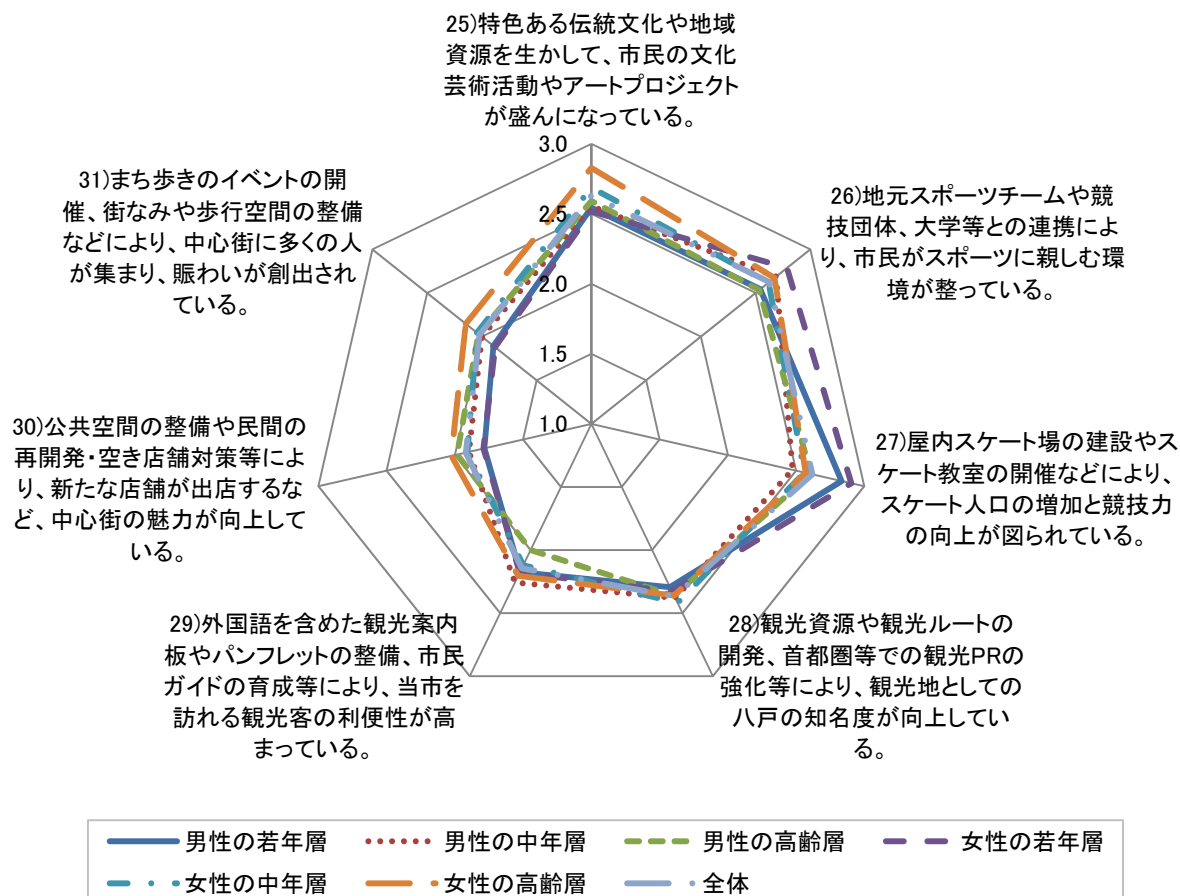
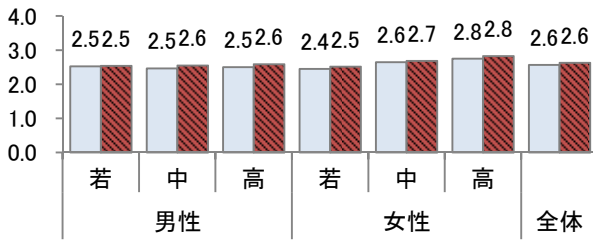


図 22 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野の現状評価[年齢層別]

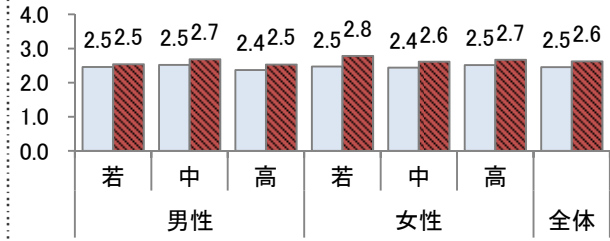
＜前回の調査結果との比較＞

□ 平成28年 ■ 平成29年

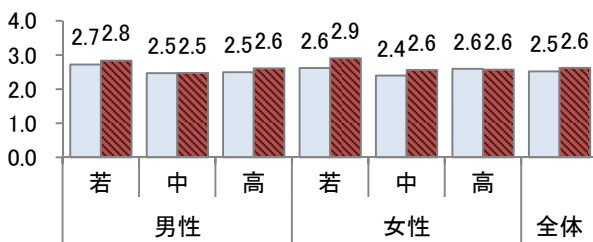
25) 特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている。



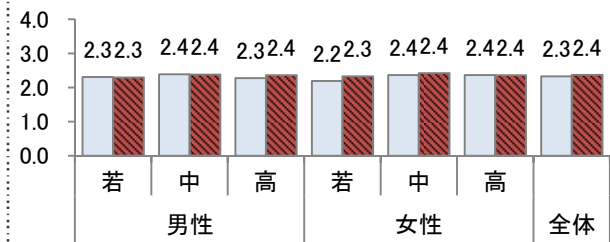
26) 地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている。



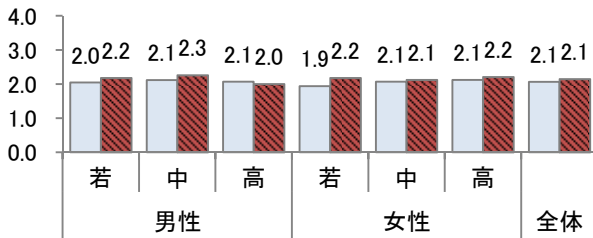
27) 屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている。



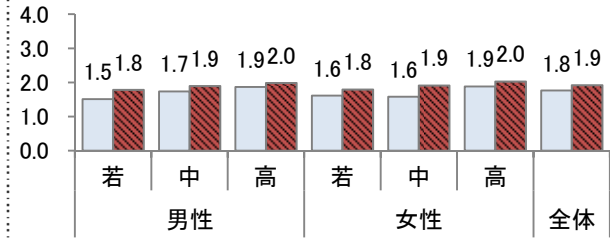
28) 観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光 PR の強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している。



29) 外国語を含めた観光案内板やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている。



30) 公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している。



31) まち歩きイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている。

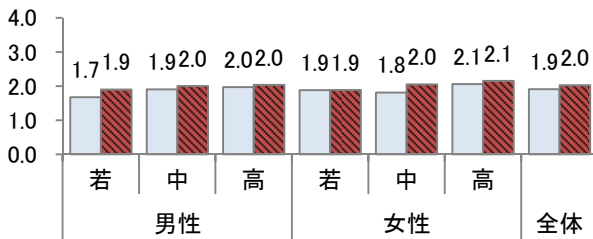


図 23 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野における前回の調査結果との比較[年齢層別]

(5) 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野

<今回の調査結果>

- 「町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている」の項目は、全体に比べて男性の中年層以外と女性の中年層以下の現状評価が低い。
- 「窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている」の項目は、全体に比べて女性の高齢層の現状評価が高い。

表 11 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野の現状評価[年齢層別] (単位: 点)

項 目	男性			女性			全 体
	若	中	高	若	中	高	
32) 地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力し合いながらまちづくりが進められている。	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.5	2.3
33) 町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている。	2.2	2.3	2.2	2.2	2.2	2.4	2.3
34) 窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている。	2.9	2.7	2.8	2.9	2.8	3.0	2.9
35) 岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての八戸市の役割が高まっている。	2.6	2.9	2.8	2.4	2.5	2.7	2.7
36) 運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている。	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.7	2.6
37) 医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。	2.4	2.4	2.4	2.3	2.5	2.6	2.5

※「若」: 若年層(18～39 歳)、「中」: 中年層(40～59 歳)、「高」: 高齢層(60 歳以上)

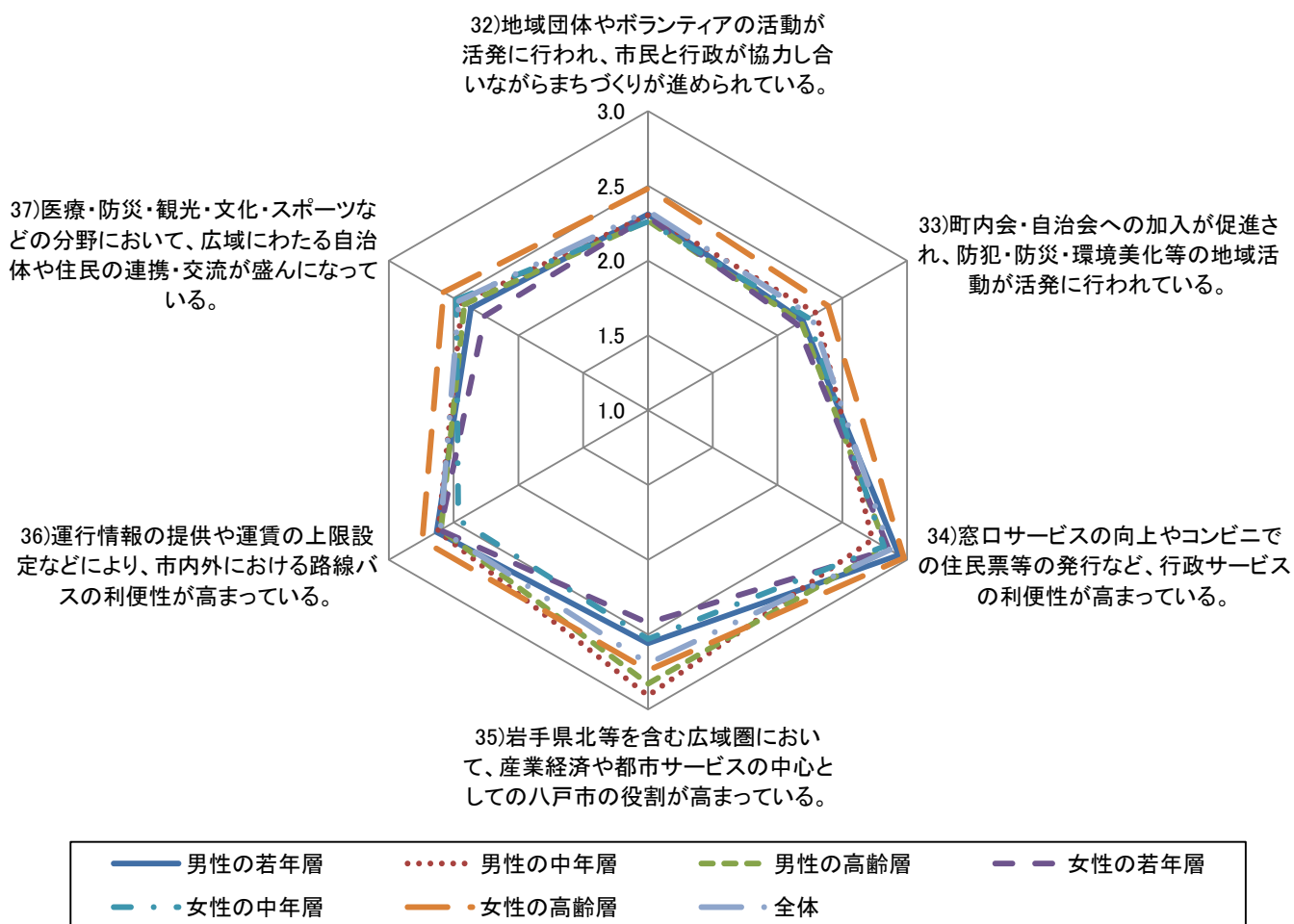
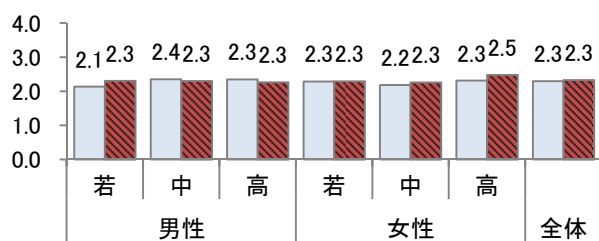


図 24 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野の現状評価[年齢層別]

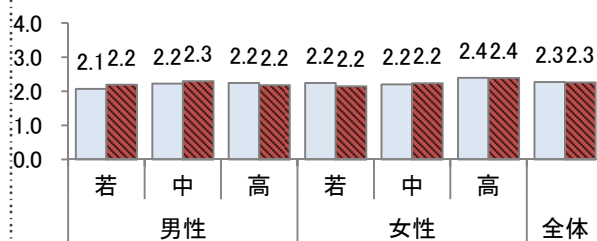
<前回の調査結果との比較>

□ 平成28年 ■ 平成29年

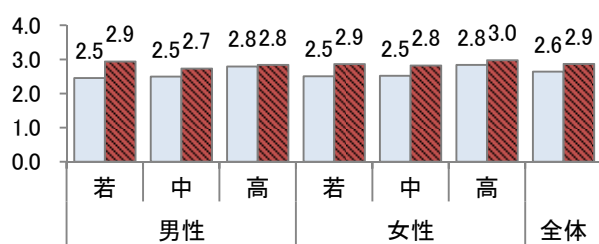
32) 地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力し合いながらまちづくりが進められている。



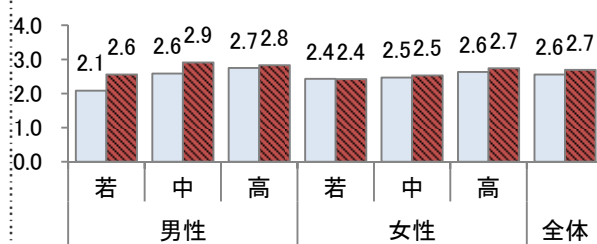
33) 町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている。



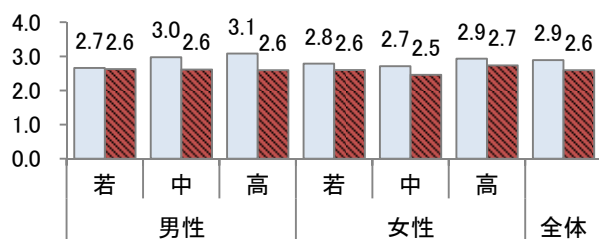
34) 窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている。



35) 岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての八戸市の役割が高まっている。



36) 運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている。



37) 医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。

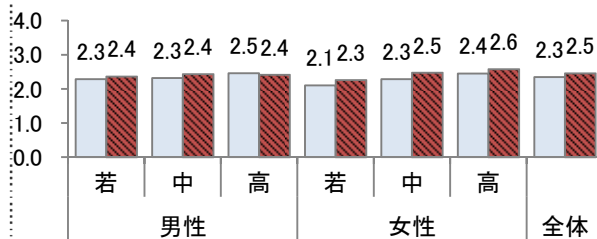


図 25 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野における前回の調査結果との比較[年齢層別]

3. 属性別の八戸市に対する愛着や誇り

(1) 属性別の八戸市に対する愛着

表 12 属性別の八戸市に対する愛着

		平成 29 年						平成 28 年						比較		
		有効回答数	愛着を感じている(A)	どちらかといえば感じている(B)	どちらかといえば感じていない	感じていない	無回答	有効回答数	愛着を感じている(C)	どちらかといえば感じている(D)	どちらかといえば感じていない	感じていない	無回答	平成 29 年愛着度(A+B)	平成 28 年愛着度(C+D)	愛着度の増減
単位		票	%	%	%	%	%	票	%	%	%	%	%	%	%	pt
性別	男性	294	53.7	32.0	11.2	3.1	0.0	292	50.4	38.0	7.2	4.1	0.3	85.7	88.4	▲2.7
	女性	344	41.3	44.1	9.3	4.4	0.9	356	44.1	43.0	9.0	2.8	1.1	85.4	87.1	▲1.7
年齢	18～29 歳	53	37.7	39.7	15.1	7.5	0.0	58	29.3	51.8	10.3	8.6	0.0	77.4	81.1	▲3.7
	30～39 歳	76	31.6	51.3	11.8	5.3	0.0	85	22.4	55.2	14.1	7.1	1.2	82.9	77.6	5.3
	40～49 歳	108	48.2	37.0	8.3	6.5	0.0	119	41.2	43.7	10.9	4.2	0.0	85.2	84.9	0.3
	50～59 歳	123	42.2	40.7	13.0	4.1	0.0	128	44.5	42.2	10.2	3.1	0.0	82.9	86.7	▲3.8
	60～69 歳	163	49.0	38.7	8.6	3.1	0.6	178	58.4	33.1	6.2	1.7	0.6	87.7	91.5	▲3.8
	70～79 歳	86	65.1	23.3	11.6	0.0	0.0	84	60.6	31.0	6.0	1.2	1.2	88.4	91.6	▲3.2
	80 歳以上	68	60.4	33.8	2.9	0.0	2.9	77	57.1	35.1	1.3	1.3	5.2	94.2	92.2	2.0
家族構成	単身世帯	66	50.0	36.4	9.1	4.5	0.0	67	50.7	40.3	3.0	3.0	3.0	86.4	91.0	▲4.6
	夫婦世帯	207	49.3	37.7	10.6	1.9	0.5	232	49.1	37.1	9.5	3.9	0.4	87.0	86.2	0.8
	二世世代世帯 ^{*1}	306	44.8	39.9	9.8	5.2	0.3	316	42.7	44.1	10.1	2.8	0.3	84.7	86.8	▲2.1
	三世世代世帯 ^{*2}	77	53.2	35.1	7.8	2.6	1.3	78	48.8	39.7	5.1	5.1	1.3	88.3	88.5	▲0.2
	その他	11	63.6	27.3	9.1	0.0	0.0	14	42.9	42.9	0.0	7.1	7.1	90.9	85.8	5.1
居住年数	1 年未満	12	25.0	25.0	33.3	16.7	0.0	7	0.0	42.8	28.6	28.6	0.0	50.0	42.8	7.2
	1～4 年	16	12.5	68.7	18.8	0.0	0.0	19	15.8	47.4	10.5	26.3	0.0	81.2	63.2	18.0
	5～9 年	26	19.2	57.8	15.4	3.8	3.8	35	20.0	40.0	25.7	11.4	2.9	77.0	60.0	17.0
	10～19 年	50	32.0	42.0	18.0	8.0	0.0	65	40.0	38.5	15.4	4.6	1.5	74.0	78.5	▲4.5
	20～29 年	98	41.9	35.7	16.3	6.1	0.0	104	38.5	48.0	8.7	4.8	0.0	77.6	86.5	▲8.9
	30 年以上	474	54.2	36.1	6.8	2.5	0.4	500	53.0	38.8	5.8	1.2	1.2	90.3	91.8	▲1.5

*1…親と子

*2…親と子と孫

表 13 属性別の八戸市に対する愛着(つづき)

		平成 29 年						平成 28 年						比較		
		有効回答数	愛着を感じている(A)	どちらかといえば感じている(B)	どちらかといえば感じていない	感じていない	無回答	有効回答数	愛着を感じている(C)	どちらかといえば感じている(D)	どちらかといえば感じていない	感じていない	無回答	平成 29 年愛着度(A+B)	平成 28 年愛着度(C+D)	愛着度の増減
単位		票	%	%	%	%	%	票	%	%	%	%	%	%	%	Pt
お住まい	三八城地区	41	36.6	43.9	14.6	4.9	0.0	42	52.4	33.3	0.0	9.5	4.8	80.5	85.7	▲5.2
	柏崎地区	30	60.0	26.7	3.3	10.0	0.0	30	43.4	30.0	23.3	3.3	0.0	86.7	73.4	13.3
	吹上地区	44	56.9	38.6	4.5	0.0	0.0	44	52.3	43.2	4.5	0.0	0.0	95.5	95.5	0.0
	長者地区	34	41.3	38.2	17.6	2.9	0.0	39	53.9	25.6	17.9	2.6	0.0	79.5	79.5	0.0
	小中野地区	43	51.2	30.2	16.3	2.3	0.0	50	60.0	28.0	4.0	4.0	4.0	81.4	88.0	▲6.6
	湊地区	38	57.9	31.6	7.9	2.6	0.0	50	52.0	34.0	12.0	2.0	0.0	89.5	86.0	3.5
	白銀地区	58	41.4	43.1	12.1	1.7	1.7	63	47.6	44.4	4.8	1.6	1.6	84.5	92.0	▲7.5
	鮫地区	24	62.5	33.3	4.2	0.0	0.0	23	47.9	43.5	4.3	4.3	0.0	95.8	91.4	4.4
	根城地区	68	60.3	25.0	10.3	4.4	0.0	76	50.0	39.5	7.9	1.3	1.3	85.3	89.5	▲4.2
	是川地区	17	41.2	52.9	5.9	0.0	0.0	20	55.0	25.0	10.0	10.0	0.0	94.1	80.0	14.1
	上長地区	26	38.5	42.4	11.5	3.8	3.8	30	43.3	53.4	0.0	3.3	0.0	80.9	96.7	▲15.8
	市川地区	29	37.9	48.4	3.4	10.3	0.0	40	37.5	57.5	2.5	2.5	0.0	86.3	95.0	▲8.7
	館地区	13	61.5	30.8	0.0	7.7	0.0	11	36.4	63.6	0.0	0.0	0.0	92.3	100.0	▲7.7
	豊崎地区	7	71.4	14.3	0.0	0.0	14.3	5	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	85.7	80.0	5.7
	大館地区	60	50.0	45.0	5.0	0.0	0.0	57	42.1	43.9	7.0	3.5	3.5	95.0	86.0	9.0
	下長地区	72	40.3	38.9	13.9	6.9	0.0	77	36.4	45.4	14.3	3.9	0.0	79.2	81.8	▲2.6
	南浜地区	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	80.0	80.0	0.0
	南郷地区	17	42.9	42.9	9.4	4.8	0.0	21	42.9	42.9	9.4	4.8	0.0	85.8	85.8	0.0
	その他	49	36.7	45.0	16.3	2.0	0.0	36	38.9	44.4	11.1	5.6	0.0	81.7	83.3	▲1.6

(2) 属性別の八戸市に対する誇り

表 14 属性別の八戸市に対する誇り

		平成 29 年						平成 28 年						比較		
		有効回答数	誇りを感じている(A)	どちらかといえば感じている(B)	どちらかといえば感じていない	感じていない	無回答	有効回答数	誇りを感じている(C)	どちらかといえば感じている(D)	どちらかといえば感じていない	感じていない	無回答	平成 29 年自慢度(A+B)	平成 28 年自慢度(C+D)	自慢度の増減
単位		票	%	%	%	%	%	票	%	%	%	%	%	%	%	pt
性別	男性	294	36.4	36.1	21.4	5.8	0.3	292	30.1	46.7	17.8	5.1	0.3	72.5	76.8	▲4.3
	女性	344	25.3	47.1	19.2	7.8	0.6	356	23.3	47.8	22.2	5.9	0.8	72.4	71.1	1.3
年齢	18～29 歳	53	18.9	39.6	26.4	15.1	0.0	58	20.7	36.2	29.3	13.8	0.0	58.5	56.9	1.6
	30～39 歳	76	23.7	35.5	26.3	14.5	0.0	85	10.6	41.1	36.5	10.6	1.2	59.2	51.7	7.5
	40～49 歳	108	25.0	44.4	21.3	9.3	0.0	119	19.3	52.2	21.8	6.7	0.0	69.4	71.5	▲2.1
	50～59 歳	123	25.2	47.1	22.8	4.9	0.0	128	22.7	48.4	23.4	5.5	0.0	72.3	71.1	1.2
	60～69 歳	163	33.7	42.4	19.6	4.3	0.0	178	31.5	49.3	15.2	3.4	0.6	76.1	80.8	▲4.7
	70～79 歳	86	45.3	33.7	16.3	3.5	1.2	84	39.3	45.2	11.9	2.4	1.2	79.0	84.5	▲5.5
	80 歳以上	68	45.6	41.2	8.8	1.5	2.9	77	37.7	49.3	7.8	0.0	5.2	86.8	87.0	▲0.2
家族構成	単身世帯	66	33.3	47.0	12.1	7.6	0.0	67	25.4	52.2	11.9	7.5	3.0	80.3	77.6	2.7
	夫婦世帯	207	34.8	39.1	19.3	6.3	0.5	232	28.4	45.7	20.3	5.2	0.4	73.9	74.1	▲0.2
	二世世代世帯*1	306	26.5	41.8	23.9	7.5	0.3	316	24.7	47.8	21.8	5.4	0.3	68.3	72.5	▲4.2
	三世世代世帯*2	77	36.4	40.2	15.6	6.5	1.3	78	25.6	44.9	23.1	6.4	0.0	76.6	70.5	6.1
	その他	11	45.4	45.4	9.2	0.0	0.0	14	7.1	64.4	14.3	7.1	7.1	90.8	71.5	19.3
居住年数	1 年未満	12	0.0	41.7	33.3	25.0	0.0	7	0.0	14.3	57.1	28.6	0.0	41.7	14.3	27.4
	1～4 年	16	6.3	49.9	37.5	6.3	0.0	19	0.0	47.3	31.6	21.1	0.0	56.2	47.3	8.9
	5～9 年	26	26.9	38.5	26.9	7.7	0.0	35	8.6	42.8	28.6	17.1	2.9	65.4	51.4	14.0
	10～19 年	50	20.0	36.0	32.0	12.0	0.0	65	20.0	40.0	32.3	6.2	1.5	56.0	60.0	▲4.0
	20～29 年	98	25.5	36.7	24.5	13.3	0.0	104	26.9	39.5	24.0	9.6	0.0	62.2	66.4	▲4.2
	30 年以上	474	35.2	42.9	16.9	4.4	0.6	500	29.4	50.4	16.4	2.8	1.0	78.1	79.8	▲1.7

*1…親と子

*2…親と子と孫

表 15 属性別の八戸市に対する誇り(つづき)

		平成 29 年						平成 28 年						比較		
		有効回答数	誇りを感じている(A)	どちらかといえば感じている(B)	どちらかといえば感じていない	感じていない	無回答	有効回答数	誇りを感じている(C)	どちらかといえば感じている(D)	どちらかといえば感じていない	感じていない	無回答	平成 29 年自慢度(A+B)	平成 28 年自慢度(C+D)	自慢度の増減
単位		票	%	%	%	%	%	票	%	%	%	%	%	%	%	pt
お住まい	三八城地区	41	39.0	36.6	19.5	4.9	0.0	42	33.3	45.3	11.9	9.5	0.0	75.6	78.6	▲3.0
	柏崎地区	30	53.3	30.0	10.0	6.7	0.0	30	30.0	36.7	20.0	13.3	0.0	83.3	66.7	16.6
	吹上地区	44	31.8	50.0	18.2	0.0	0.0	44	20.5	56.8	22.7	0.0	0.0	81.8	77.3	4.5
	長者地区	34	23.5	41.2	29.4	5.9	0.0	39	35.9	33.3	28.2	2.6	0.0	64.7	69.2	▲4.5
	小中野地区	43	34.9	34.9	27.9	2.3	0.0	50	28.0	52.0	12.0	4.0	4.0	69.8	80.0	▲10.2
	湊地区	38	18.4	57.9	15.8	7.9	0.0	50	26.0	46.0	24.0	4.0	0.0	76.3	72.0	4.3
	白銀地区	58	22.4	51.8	20.7	3.4	1.7	63	25.4	58.7	11.1	3.2	1.6	74.2	84.1	▲9.9
	鮫地区	24	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0	23	34.9	30.4	30.4	4.3	0.0	87.5	65.3	22.2
	根城地区	68	44.1	30.9	16.2	8.8	0.0	76	23.7	54.0	19.7	1.3	1.3	75.0	77.7	▲2.7
	是川地区	17	29.4	47.1	23.5	0.0	0.0	20	45.0	20.0	20.0	15.0	0.0	76.5	65.0	11.5
	上長地区	26	23.1	42.3	26.9	7.7	0.0	30	36.7	39.9	16.7	6.7	0.0	65.4	76.6	▲11.2
	市川地区	29	27.6	41.4	17.2	13.8	0.0	40	20.0	60.0	15.0	5.0	0.0	69.0	80.0	▲11.0
	館地区	13	23.1	53.8	15.4	7.7	0.0	11	27.3	72.7	0.0	0.0	0.0	76.9	100.0	▲23.1
	豊崎地区	7	14.3	57.1	0.0	14.3	14.3	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	71.4	80.0	▲8.6
	大館地区	60	26.7	41.6	26.7	5.0	0.0	57	28.1	35.1	26.3	7.0	3.5	68.3	63.2	5.1
	下長地区	72	26.4	33.3	25.0	13.9	1.4	77	14.3	49.3	29.9	6.5	0.0	59.7	63.6	▲3.9
	南浜地区	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	5	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	80.0	60.0	20.0
	南郷地区	17	41.2	52.9	5.9	0.0	0.0	21	19.0	57.2	19.0	4.8	0.0	94.1	76.2	17.9
	その他	49	30.6	38.8	20.4	10.2	0.0	36	19.4	44.5	25.0	11.1	0.0	69.4	63.9	5.5

4. 年齢別・居住年数別の施策の認知度

(1) 年齢別による施策の認知度

①子育て・教育・男女共同参画に関する分野

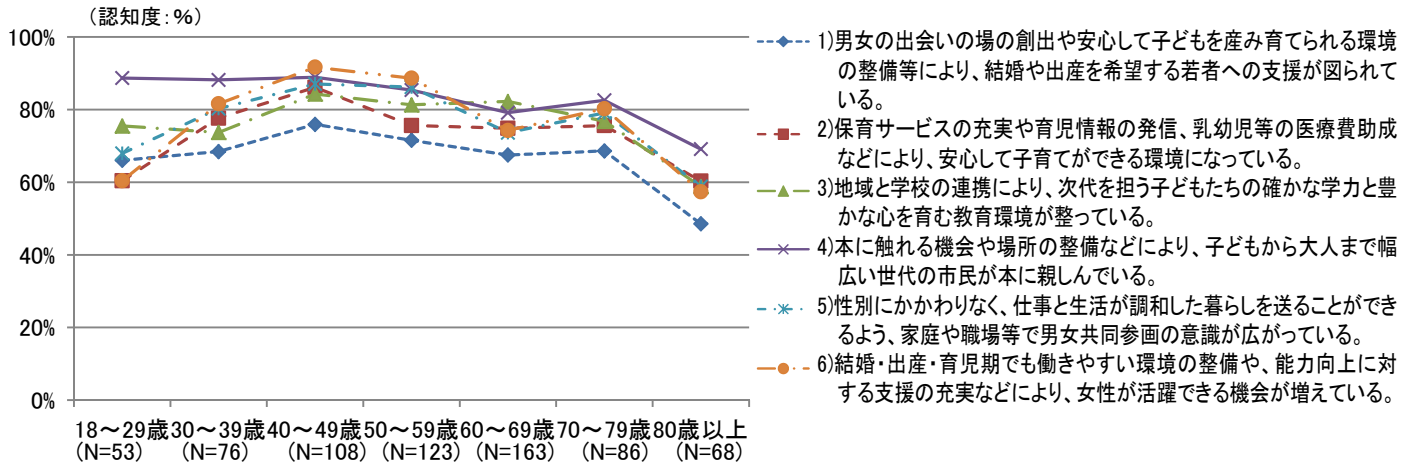


図 26 子育て・教育・男女共同参画に関する分野における年齢別の認知度

②産業・雇用に関する分野

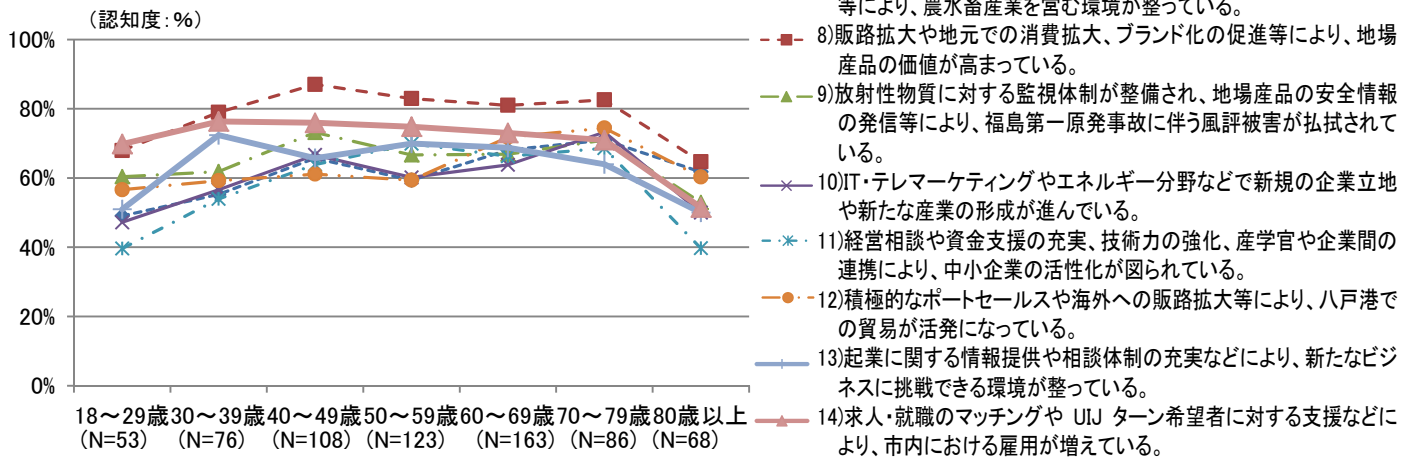


図 27 産業・雇用に関する分野における年齢別の認知度

③防災・健康・福祉に関する分野

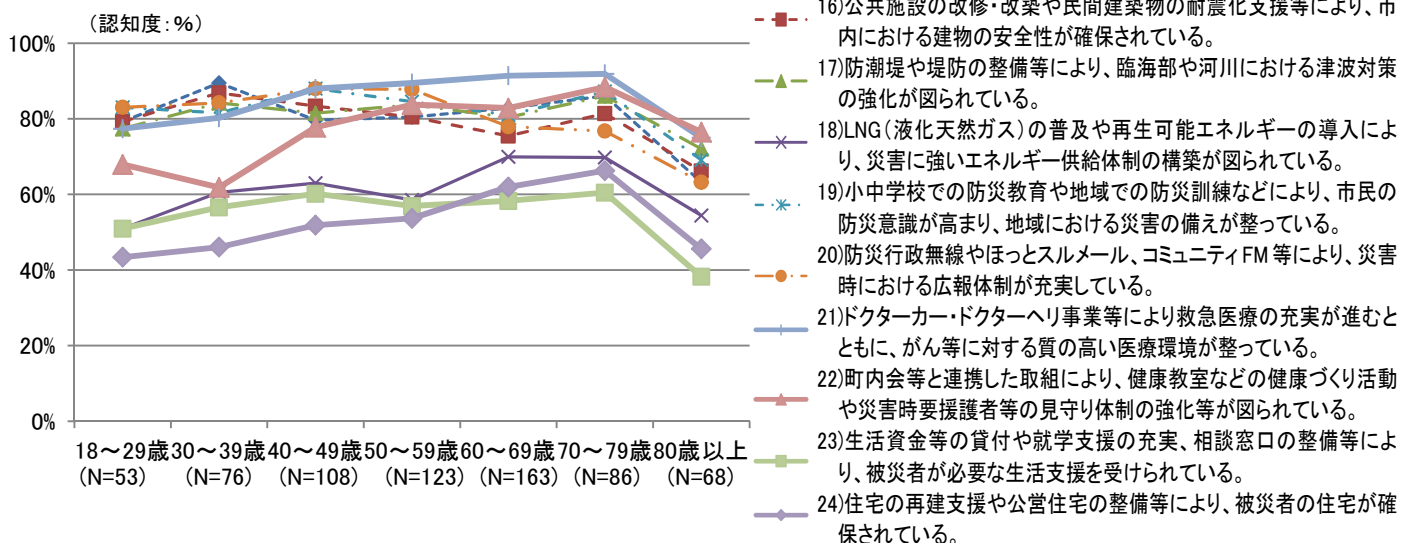


図 28 防災・健康・福祉に関する分野における年齢別の認知度

※認知度：「判断できない」を除いた、「十分満たされている」「まあまあ満たされている」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」を合わせた割合

④文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野

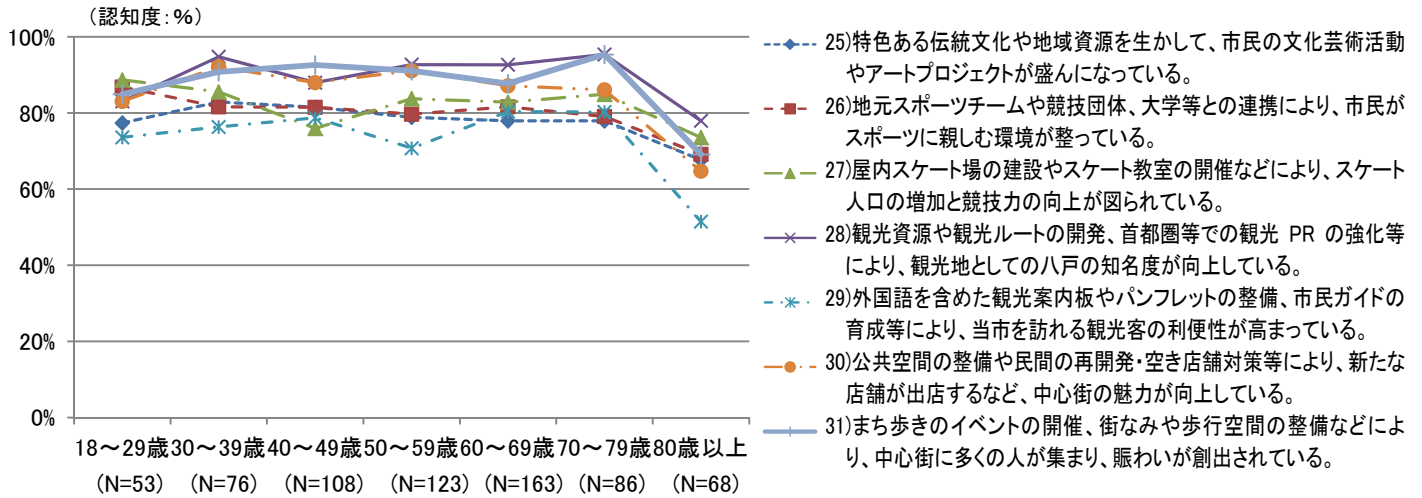


図 29 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野における年齢別の認知度

⑤市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野

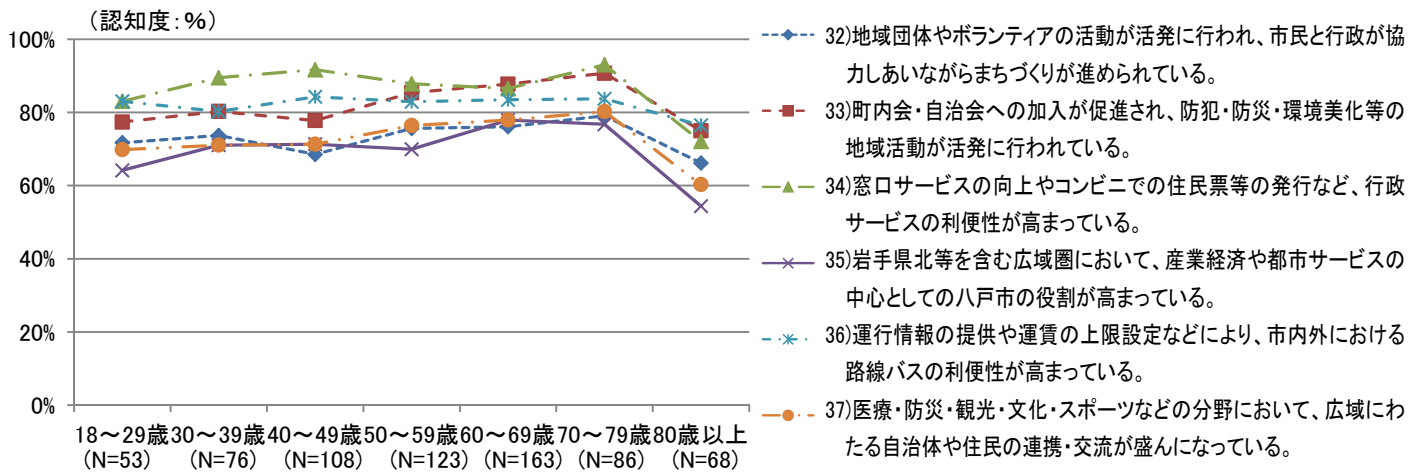


図 30 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野における年齢別の認知度

※認知度：「判断できない」を除いた、「十分満たされている」「まあまあ満たされている」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」を合わせた割合

(2) 居住年数別による施策の認知度

①子育て・教育・男女共同参画に関する分野

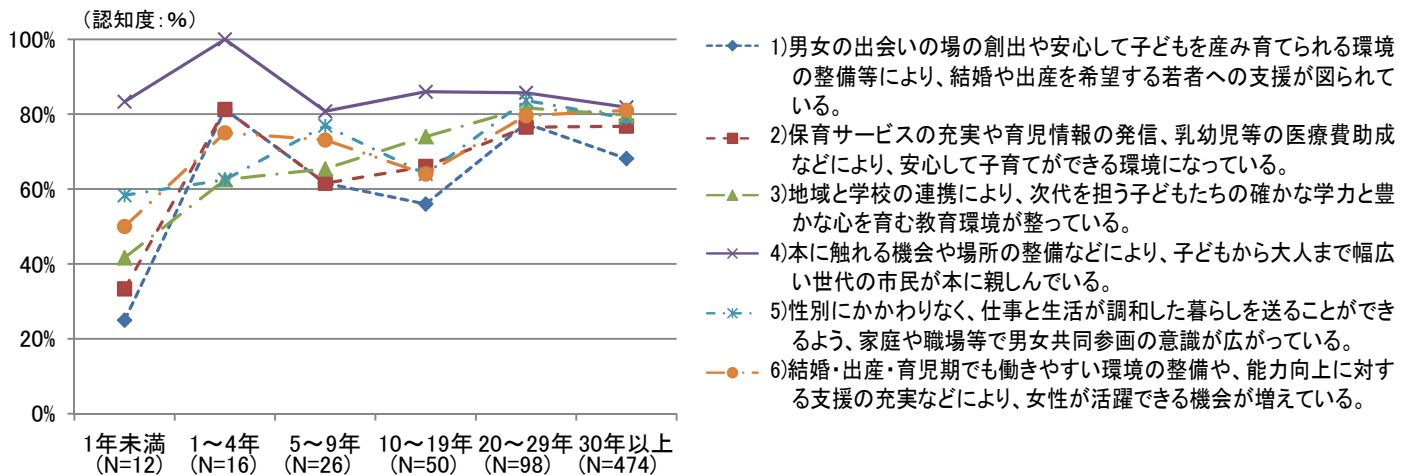


図 31 子育て・教育・男女共同参画に関する分野における居住年数別の認知度

②産業・雇用に関する分野

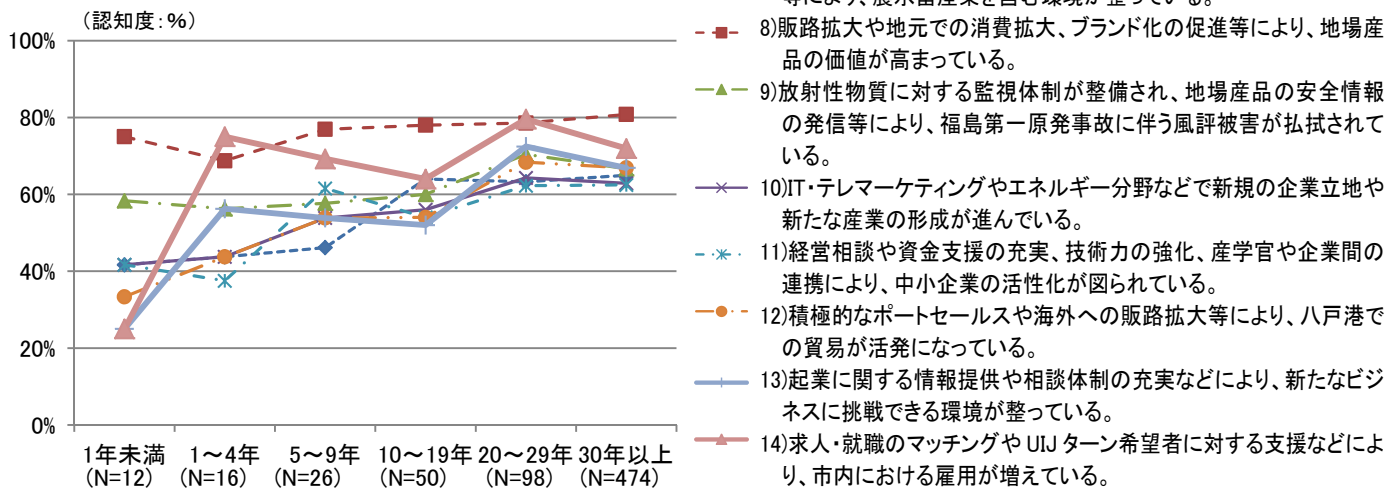


図 32 産業・雇用に関する分野における居住年数別の認知度

③防災・健康・福祉に関する分野

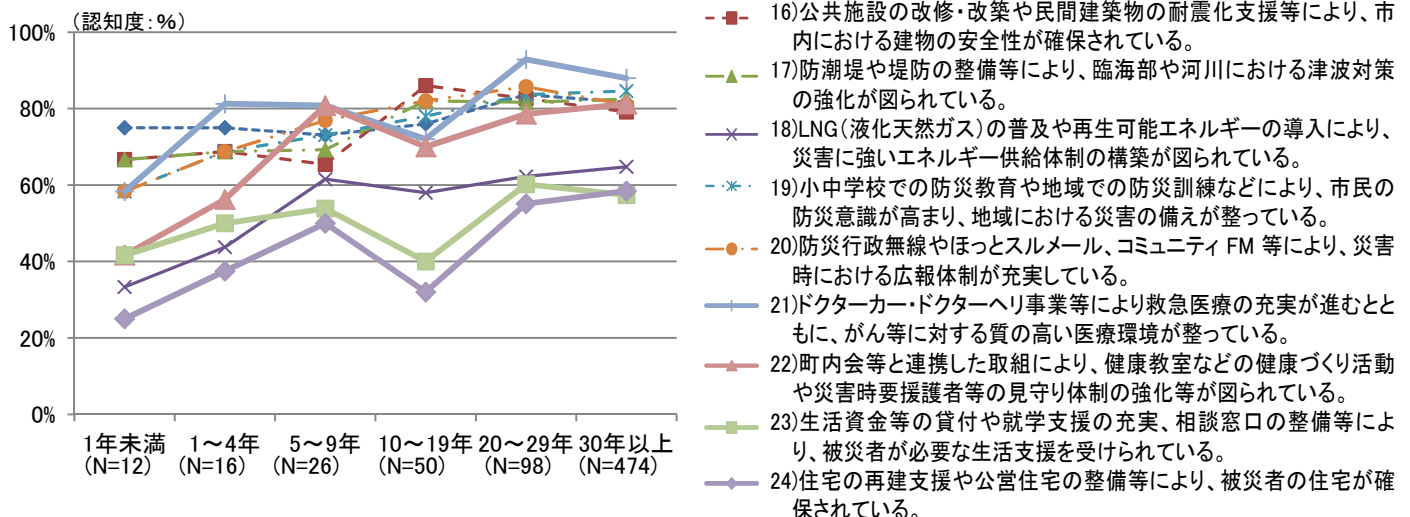


図 33 防災・健康・福祉に関する分野における居住年数別の認知度

※認知度: 「判断できない」を除いた、「十分満たされている」「まあまあ満たされている」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」を合わせた割合

④文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野

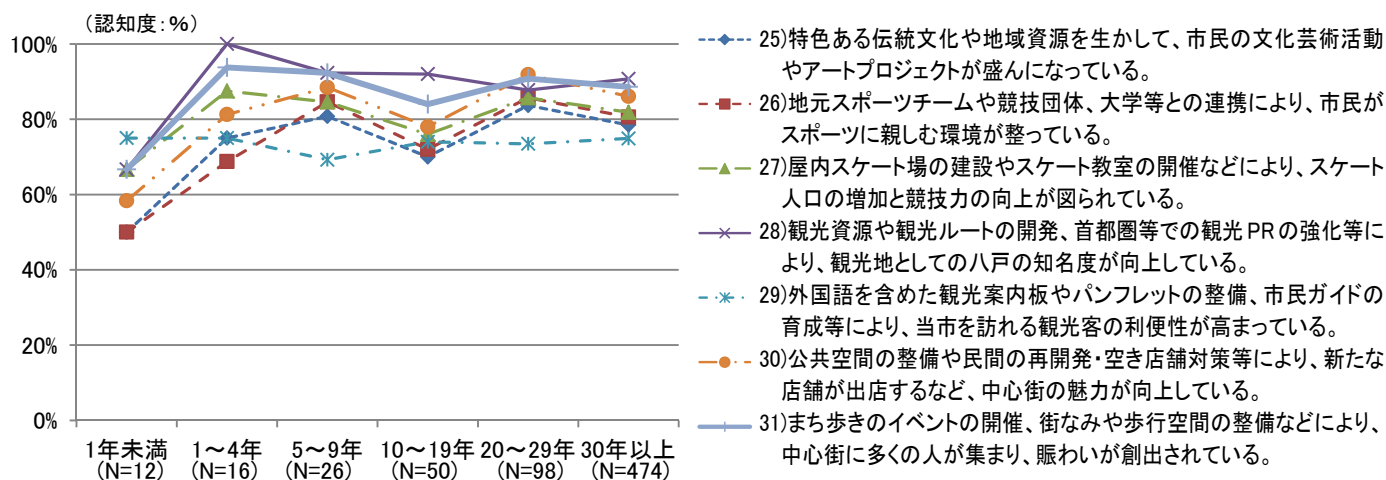


図 34 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野における居住年数別の認知度

⑤市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野

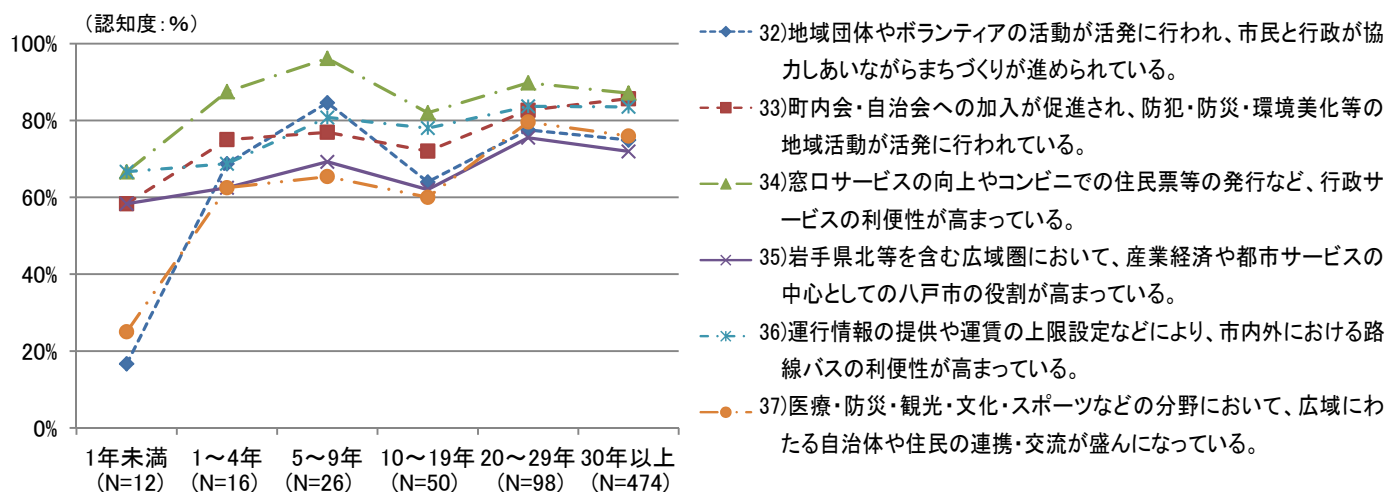


図 35 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野における居住年数別の認知度

※認知度: 「判断できない」を除いた、「十分満たされている」「まあまあ満たされている」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」を合わせた割合

V 自由回答

1. 分類・整理の方法

以下の(1)～(2)の方法により、自由回答の整理を行った。

(1) 市民アンケート調査の設問項目の枠組みで整理

- 自由回答については、調査票の5つの分野(①子育て・教育・男女共同参画、②産業・雇用、③防災・健康・福祉、④文化・スポーツ・観光・中心市街地、⑤市民活動・行政サービス・広域連携)ごとに整理している。

(2) 同一回答者の自由回答を分割

- 複数の分野に関わる内容を回答している場合は、内容を分割して、それぞれの項目に分類・整理した。

(3) 分類・整理の結果

- 自由回答を分類・整理した結果、その他を除くと「④文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野」の自由回答が最も多く140件となった。次いで、「①子育て・教育・男女共同参画に関する分野」の自由回答が90件となった。

表 16 分野別自由回答件数

自由回答の分類大項目	回答件数 (率)
①子育て・教育・男女共同参画に関する分野	90 (18.7)
②産業・雇用に関する分野	25 (5.2)
③防災・健康・福祉に関する分野	20 (4.1)
④文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野	140 (29.0)
⑤市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野	52 (10.8)
⑥その他	155 (32.2)
合 計	482 (100.0)

(4) 主な意見

➤ 自由回答のうち、複数寄せられた意見など代表的なものを5つの分野ごとに掲載する。

①子育て・教育・男女共同参画に関する分野

- ・ 少子化を抑制するためには、子どもを安心して産める環境づくりが必要だと思う。
- ・ 出産できる病院を増やしてほしい。
- ・ 独身の方がとても多いと思うので、若い男女の出会いの場を増やすなど、結婚を支援する取組が必要だと思う。
- ・ 公園等の遊具不足や整備不良等により、子どもが安心して遊べる場所が少ないと思う。
- ・ 子どもの医療費（通院）は、現在、未就学児が無料となっているが、小中学生が対象となるよう範囲を拡充してほしい。
- ・ 病児保育施設を増やしてほしい。
- ・ まちづくりは人づくりでもあると思う。人を思いやれる人を育てれば自然と八戸の魅力が向上すると思うので、小学生から人間性を向上させるための取組を行ってほしい。
- ・ 市内に国公立大学があれば、若者が地域に定着しやすくなると思うので、市立大学の設置を検討してほしい。
- ・ バスに乗って初めて八戸ブックセンターに行ってみたが、とても良かった。普段は車で移動しているが、子どもにバスの乗り方を教えながら中心街に行くことも楽しい。
- ・ 赤字を覚悟してまでブックセンターを運営する意義がわかりにくい。
- ・ マイブッククーポンを継続してほしい。
- ・ 学童保育の充実など、子育てしながらでも働ける環境づくりが大切だと思う。
- ・ 子育て・教育・男女共同参画に関する分野については、職場の理解が重要なので、市から各企業へ強く働き掛けてほしい。
- ・ 保育施設に預けることができず育児休暇から職場に復帰できない人がいるので対策を講じてほしい。

②産業・雇用に関する分野

- ・ 産業が盛んになれば人は集まってくる。漁業だけでなく産学共同により新しい産業が生まれることを期待している。
- ・ 大学を卒業しても働きたいと思える企業がないことが、若者を県外に就職させてしまうため、若者の人口が減り、子供の数も減っていると思う。大手企業の誘致などにより魅力ある雇用を生み出すことが必要だと思う。
- ・ 市外から進出する企業を優遇するだけではなく、地場産業の活性化・優遇措置をしてほしい。特に地元企業は後継者問題が深刻なので、対策を講じてほしい。
- ・ 若者の起業に対する支援にもっと力を入れてほしい。
- ・ Uターン経験者として地方と中央の生活レベルの違いはあるにせよ最低賃金の低さに驚いた。
- ・ 都会で働いている子供が、八戸の賃金が低く、仕事も少ないため帰れないということである。首都圏との賃金格差を少しでも無くすように努力してほしい。
- ・ 若い人達が八戸で生活していけるよう、賃金が上がり、やりがいのある仕事が増えてほしい。

③防災・健康・福祉に関する分野

- ・ 津波対策について、防潮堤や堤防の整備をさらに強化し、津波が国道45号を越えることがないように市中心部へ入り込みにくくする対策をとってほしい。
- ・ 公共施設の耐震化がどの程度進んでいるかわからない。目立つところに耐震化済みであることを表記してほしい。
- ・ 医療に関して、これから進む高齢化への対策が不十分に感じる。緩和ケア・在宅医療等について考えてほしい。
- ・ プライバシーの問題があるため難しいと思うが、ひとり暮らしの高齢者の孤独死などを防ぐことができる環境づくりが必要だと思う。
- ・ ドクターカー・ドクターヘリに関しては最先端であり充分満たされていると思うが、がん等に関する医療環境は整っていると思えない。

④文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野

- ・ 南郷地区で文化活動をしっかりやっていると思う。
- ・ 民俗芸能鑑賞会に岩手県北や上北・下北の民俗芸能が参加していたことはいいと思う。
- ・ 健康促進の一つとして気軽に散歩などが出来るよう、運動のできるような公園や歩道などの整備を進めてほしい。
- ・ 市内小中学校でスケートの授業がなくなる新聞記事を見たが、氷都八戸の地盤を揺るがしかねないことだと心配している。
- ・ 屋内スケート場の建設が盛んに行なわれているが、以前と比較するとスケート人口が少なくなっているため、子どもたちがスケートに魅力を感じるような取組をしてほしい。
- ・ 博物館や種差海岸など素晴らしい観光資源があるのに対し、宣伝（PR）活動があまり出きていないように思う。
- ・ 蕪島に観光客が来ても、蕪島周辺はもちろん最寄りの駅周辺にも食堂等がなく、困っている方々を見かける。地域に任せるだけでなく、市の方も少し関わってほしい。
- ・ 他地域で行なわれている“市民ひとり一人が観光ガイド”は、地方都市の経済活性化と地元をより知ることの効果があると考え。観光地域経済活性化のため、さらに市民のパワーアップが必要だと思う。
- ・ 外国人観光客に対応できるよう、低料金で英会話・外国語を学べる場所がほしい。
- ・ 今後、増加すると予想される空き家・空き店舗対策に早期に取り組んでほしい。
- ・ 中心市街地は、食に関する施設が充実している一方、商業施設など他の施設が少ないと思う。
- ・ 郊外に高等教育機関の校舎があることが中心市街地に若者が集まらない要因だと思うので、キャンパスの一部移転等により、中心市街地にもっと若者を誘導し活性化して欲しい。
- ・ 中心街のまちづくりは若者（未成年含む）向けの開発をしていないように思う。
- ・ ブックセンターやはっちなど市民が出掛けてみたくなる施設が増えて、まちに行く人も多くなったと思う。
- ・ 中心市街地には無料の駐車場が少なく、駐車料金を払ってまで行く魅力がないと思う。
- ・ 中心市街地の歩道は、高低差があったり、冬季に凍結したり、歩行に気を使うことがあるので対策が必要だと思う。
- ・ 郊外型のショッピングセンターに人が流れていると思う。中心市街地の活気を取り戻すためには、若い世代が足を運ぶよう、駐車場の無料化、オープンカフェ、イルミネーションの点灯、イベントの開催などを考えていくことが必要だと思う。

⑤市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野

- ・ 行政の積極的な姿勢と市民の参加意欲等にギャップがあるように思う。
- ・ 近年、地域活動に対する行政（市）の理解が進み、意見を聞き入れ大変協力的になった。今後も行政と地域が連携を深め“住みたい都市”の実現を目指してほしい。
- ・ 市の取組を検討する際は、専門家等ばかりでなく、一般市民の意見を広く取り入れた方がいいと思う。
- ・ 町内会活動は、町内によってかなり温度差があると思う。
- ・ 町内の連携が進んでいるように思う一方、古い体質が残っていると感じる。各世代がそれぞれ連携し、よい町にしていこうという気持ちを一つにしていけばもっと良くなると思う。
- ・ いくら町内会活性化を図ったとしても、少子化・高齢化の中では限界がある。住民が減り存続出来ずに解散する町内会があると聞くので、市全体で取り組むべき早急の課題だと思う。
- ・ 中核市への移行に伴い、どのような市民サービスへの還元、あるいはスピードのある行政処理が行なわれるのか期待している。
- ・ 各分野において幅広く行政活動をしていても、市民側から情報を取りに行かなければなかなかわからないことが多い。市民に伝わらなければ意味をなさないため、目に見える、耳に伝わる方法をより強化することが必要だと思う。
- ・ 公共交通について、通勤・通学時間の混雑時は大型バスが必要だと思うが、混雑時以外は小型バスをきめ細かく走らせた方が有効だと思う。
- ・ 子どもや高齢者が利用しやすいよう、低床バスの導入を進めてほしい。

VI 参考資料

1. アンケート調査票（A4）

「市民アンケート調査」ご協力のお願い

市民の皆様には、日頃より市政へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

当市では、今後、進行が予想される人口減少や少子高齢化といった厳しい社会情勢の中にあっても、課題や困難を乗り越え、明るい未来を描き、市民満足度の高い地域を創造していくため、平成28年度を初年度とする第6次八戸市総合計画を策定し、現在、様々な分野で施策に取り組んでおります。

また、東日本大震災からの計画的な復興を目指すため、平成23年度に八戸市復興計画を策定し、「より強い、より元気な、より美しい八戸」の実現に向けて様々な施策に取り組んでおります。

このたび、これらの計画で重点的かつ分野横断的に推進する施策について、市民の皆様のお考えやご意見をお伺いし、施策の進行管理の基礎資料として活用させていただくため、昨年度に引き続き、2回目となる市民アンケート調査を実施することといたしました。

今回の市民アンケート調査は、当市にお住まいの18歳以上の市民の方から無作為で抽出した1,000名の方と、市政モニター100名の方、総合計画の策定に携わった32名の方をお願いしております。

また、ご回答の内容は、すべて統計的に処理し、プライバシーの保護はもとより、他の目的に利用することは一切ございませんので、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成29年1月 八戸市長 小林 眞
(公印省略)

- このアンケート調査は、**平成29年2月12日（日）まで** に同封の返信用封筒で返送（切手不要）してください。
- 調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
八戸市総合政策部政策推進課（中野・風張）
〒031-8686 八戸市内丸一丁目1-1
(電話) 43-2111 (内線 2016、2013) (FAX) 47-1485
E-mail: seisaku@city.hachinohe.aomori.jp

ご記入にあたってのお願い

- 封筒の宛先に書かせていただいた宛名のご本人がお答えください。
- 質問ごとに、あてはまる選択肢に○を付けてください。

(記入例)

- 問1** 下の表の設問項目ごとに、現状評価について、ア～オの選択肢の中から、あてはまるものを一つずつ選んで○を付けてください。

現状評価		現状評価 (ア～オの一つに○)				
		十分満たされている	まあまあ満たされている	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	判断できない
設問項目 八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態						
子育て・教育・男女共同参画						
1	男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ
2	保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
(省略)						
37	医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。	ア	イ	ウ	エ	オ

- 問2** 下の項目について、ア～エの選択肢の中から、あてはまるものを一つずつ選んで○を付けてください。

(1) あなたは八戸市に対して愛着を感じていますか（あてはまるもの一つに○）。

- ア 愛着を感じている
- イ どちらかといえば感じている
- ウ どちらかといえば感じていない
- エ 感じていない

1. 八戸市のまちづくりについてお聞きします

問1 八戸市のまちづくりについて、現状をどのように評価していますか。下の表の設問項目（八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態）ごとに、現状評価について、ア～オの選択肢の中から、あてはまるものを一つずつ選んで○を付けてください。

現状評価 設問項目 八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態		現状評価 (ア～オの一つに○)				
		十分満たされている	まあまあ満たされている	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	判断できない
子育て・教育・男女共同参画						
1	男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ
2	保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
3	地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ
4	本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる。	ア	イ	ウ	エ	オ
5	性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らしを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
6	結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性が活躍できる機会が増えている。	ア	イ	ウ	エ	オ
産業・雇用						
7	農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ
8	販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場産品の価値が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
9	放射性物質に対する監視体制が整備され、地場産品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている。	ア	イ	ウ	エ	オ
10	IT・テレマーケティングやエネルギー分野などで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる。	ア	イ	ウ	エ	オ
11	経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ

設問項目 八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態	現状評価	現状評価 (ア～オの一つに○)				
		十分満たされている	まあまあ満たされている	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	判断できない
12	積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
13	起業に関する情報提供や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ
14	求人・就職のマッチングやUIJターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている。	ア	イ	ウ	エ	オ
防災・健康・福祉						
15	避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ
16	公共施設の改修・改築や民間建築物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている。	ア	イ	ウ	エ	オ
17	防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ
18	LNG（液化天然ガス）の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ
19	小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ
20	防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティFM等により、災害時における広報体制が充実している。	ア	イ	ウ	エ	オ
21	ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ
22	町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ
23	生活資金等の貸付や就学支援の充実、相談窓口の整備等により、被災者が必要な生活支援を受けられている。	ア	イ	ウ	エ	オ
24	住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている。	ア	イ	ウ	エ	オ
文化・スポーツ・観光・中心市街地						
25	特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
26	地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ

設問項目 八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態	現状評価	現状評価 (ア～オの一つに○)				
		十分満たされている	まあまあ満たされている	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	判断できない
27	屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ
28	観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光PRの強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している。	ア	イ	ウ	エ	オ
29	外国語を含めた観光案内板やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
30	公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している。	ア	イ	ウ	エ	オ
31	まち歩きイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている。	ア	イ	ウ	エ	オ
市民活動・行政サービス・広域連携						
32	地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力しあいながらまちづくりが進められている。	ア	イ	ウ	エ	オ
33	町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている。	ア	イ	ウ	エ	オ
34	窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
35	岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての八戸市の役割が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
36	運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
37	医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。	ア	イ	ウ	エ	オ

問2 あなたは八戸市に対して愛着や誇りを感じていますか。下の2つの項目について、ア～エの選択肢の中から、あてはまるものを一つずつ選んで○を付けてください。

(1) あなたは八戸市に対して愛着を感じていますか（あてはまるものに○）。

- ア. 愛着を感じている
- イ. どちらかといえば感じている
- ウ. どちらかといえば感じていない
- エ. 感じていない

(2) あなたは八戸市に対して誇りを感じていますか（あてはまるものに○）。

- ア. 誇りを感じている
- イ. どちらかといえば感じている
- ウ. どちらかといえば感じていない
- エ. 感じていない

問3 この調査でお聞きしたことのほか、今後の八戸市のまちづくりについて、ご意見・ご提案がありましたら、下の自由記入欄にご自由にご記入ください。

<自由記入欄>

2. あなた自身のことがらについておたずねします

※調査結果を統計的に分析するために必要となりますので、必ずご記入ください。

問4 あなたの性別、年齢、家族構成、お住まいの状況、職業についてお聞きします。下の表のあてはまる番号に○を付けてください。

性 別	1. 男 2. 女
年 齢	1. 18～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50～59歳 5. 60～69歳 6. 70～79歳 7. 80歳以上
家族構成	1. 単身世帯 2. 夫婦世帯 3. 二世代世帯（親と子） 4. 三世代世帯（親と子と孫） 5. その他（ ）
お住まい	1. 三八城地区 2. 柏崎地区 3. 吹上地区 4. 長者地区 5. 小中野地区 6. 湊地区 7. 白銀地区 8. 鯨地区 9. 根城地区 10. 是川地区 11. 上長地区 12. 市川地区 13. 館地区 14. 豊崎地区 15. 大館地区 16. 下長地区 17. 南浜地区 18. 南郷地区 19. お住まいの地区名がわからない場合は、町内名をお書きください （ ）
八戸市（※） にお住 いの年数	1. 1年未満 2. 1～4年 3. 5～9年 4. 10～19年 5. 20～29年 6. 30年以上 ※旧南郷村での居住年数も含みます
職 業	1. 農林畜産業 2. 漁業 3. 会社員・会社役員 4. 自営業 5. 公務員 6. 団体職員 7. パート・アルバイト 8. 家事専業 9. 学生 10. 無職 11. その他（ ）

アンケートにご協力くださいまして、誠にありがとうございました